



**令和5年度
岐阜大学医学部看護学科活動報告
社会貢献部会**



GIFU UNIVERSITY

令和5年度 社会貢献活動について ご挨拶

岐阜大学医学部看護学科では、平成28年発足の「社会貢献部会」から、現在の「高大連携プログラム」「専門職を磨く教育プログラム」「看護研究支援プログラム」「地域住民健康教育プログラム」へと発展して参りました。COVID-19感染症は5類の扱いとなり、各プログラムの活動も、従来の姿に戻りつつあります。そのような状況の中、今年度も、看護学科の社会貢献活動が報告書として形になったことは喜ばしく、看護学科内外の皆様のご尽力に感謝を申し上げます。

大学は、学外の組織や地域と協働し新しいものを生み出すことを期待されています。今後もこの活動が発展することを、祈念いたします。

看護学科長 井關敦子

<社会貢献部会メンバー>

社会貢献部会長：大平幸子

専門職を磨くプログラム：山田加奈子（プログラム代表）、高橋由起子、井關敦子、魚住郁子、三尾亜喜代、柿田さおり、中島美奈子

看護研究支援プログラム：小木曾加奈子（副部会長・プログラム代表）、竹下美恵子、小林和成、社本生衣、西田友子、前田由紀、三尾亜喜代、森下智美、佐々木智恵

高大連携プログラム：金子洋美（プログラム代表）、中川ひろみ、大平幸子

地域住民健康教育プログラム：阿部誠人（プログラム代表）、瀨瀨朋弥、小林和成、田中千絵（プログラム代表：前期）、岡本名珠子（プログラム代表：後期）

目 次

ご挨拶

I. 高大連携プログラム	1
1. 令和 5 (2023) 年度 活動報告	
2. 出前授業・アンケート結果 (岐阜県立大垣東高等学校・岐阜東高等学校)	
3. 探究活動・アンケート結果 (岐阜県立岐山高等学校)	
4. 大学訪問：基礎看護学授業への参加 (岐阜県立岐山高等学校)	
II. 専門職を磨く教育プログラム	11
1. 令和 5 (2023) 年度 活動報告	
2. 講演・研修会	
1) 「トランスジェンダー、性別不合の理解と支援」講演・アンケート結果	
2) 「LGBTQ・性別不合と医療」研修会・アンケート結果	
3. mini Home Coming Day チラシ・アンケート結果	
4. 卒業生相談窓口のご案内 チラシ	
III. 看護研究支援プログラム	20
1. 令和 5 (2023) 年度 活動報告	
アンケート結果	
2. チラシ	
看護研究研修会 2023 年度 年間予定	
IV. 地域住民健康教育プログラム	42
1. 令和 5 (2023) 年度 活動報告	
2. 白寿会打ち合わせ資料・報告書	
3. ウィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した世代間交流プロジェクト	
4. 「学生による地域課題解決事業」成果報告会の報告書	

I . 高大連携プログラム

高大連携プログラム

高大連携プログラムでは、高校訪問の実績のある教員と連携し、看護に興味関心のある生徒たちを対象に、本学科の授業への参加や研究室訪問の機会を持つ。また、生徒や高校教員を対象とした出前授業や、興味関心事に対する助言を行うなどの活動を通して交流を深める。

1. 高大連携プログラムの目的

看護職として岐阜県内でリーダーシップを発揮し、看護の質の向上に貢献できる人材の育成のため、大学入試前から看護の基盤となる素養を育てる。

2. 本年度の取り組み

1) 出前授業

- ① 岐阜東高等学校
- ② 岐阜県立大垣東高等学校

2) 探究活動

岐阜県立岐山高等学校

3) 大学訪問

基礎看護学授業への参加 岐阜県立岐山高等学校

2023 年度 出前授業

日時：10月4日

場所：岐阜県立大垣東高等学校

担当者：柿田さおり

質問1：今回の授業の感想をお聞かせください（回答者5名）

- ・自分が思っていた以上に看護は大変で、学生の頃よりも働き始めてからの方が学ぶことが多いと知って驚きました
- ・高校生の私たちにも分かりやすい説明だったし、ちゃんと理解できているか確認しながら進めてくださって嬉しかったです
- ・講義を終えて一番に看護師はカッコいいなと思いました。やっぱり挑戦してみたいと感じました。
- ・看護師としての魅力がとても伝わる授業だった
- ・ときどき医療語句がでてきたりして本格的な講義を受けるところができたので良かった またグループ交流などもあって、喋ったことのない子とも話すことができたので嬉しかった

質問2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

なし

2023 年度 出前授業

日時：12月19日（火）

場所：岐阜東高等学校

担当者：柿田さおり

質問1：今回の授業の感想をお聞かせください（回答者18名）

- ・とても良い機会になって自分のためになりました
- ・大学に入った時にためになると思いました
- ・おもしろかった（2）
- ・大学での講義を想像できたので参加して良かったと感じた
- ・将来の役に立ちました とても分かりやすかったです
- ・高血圧について細かく知ることができたので良かった。
- ・看護師になったらどんな風に患者さんと向き合えば良いのか知れたので良かった
- ・インスタント麺の危険具合がわかりました！
- ・高血圧のことについて理解が深まった！ 将来の役に立てたい！ ありがとうございます！
- ・塩分量など特に私生活で意識してないことが実はとても大事だとわかった。高血圧にも繋がるからこれから気をつけたい
- ・高血圧について名前を聞いたことある程度しか知らなかったのですが、今日の講義を聞いて、より深くまでしれたので良かったです。興味深い内容ばかりでした
- ・とてもためになる話だった。患者さんについて考えることができた
- ・普段の生活で塩分についてはあまり考えたことが無かったから、とてもいい経験になった。看護についてもより興味がわいた
- ・実際の大学の講義を受けれて、看護の興味が深まりました！
- ・私は看護師を目指しているのでとてもためになりました。そして、自分が大学生になった時には何をしなければいけないかと言うのも分かったので、今の生活を変えなきゃなとも感じられて良かったです
- ・しっかりしていて丁寧で楽しかったです。 ありがとうございます！
- ・高血圧について知ることができました また、大学の授業の感じを知ることができました

質問2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・夏に暑き時とかは「塩分タブレット」を食べるけど、あれっていいの？ 暑い日に運動したら、塩分が多めにとってもいいの？
- ・減塩食品は本当に美味しいのか 添加物は普通の食品と比べてどうなのか。
- ・とても丁寧で疑問も解決されたので無いです

出前授業の様子



2023 年度 岐山高等学校探究活動

日時：10月6日

場所：岐阜大学看護学科会議室

出席者：10名

担当者：中川・大平・前田・金子

回収率：50%

質問1：今回の授業の感想をお聞かせください。

- ・すごく勉強になった。自分たちだけでは調べきれないことが沢山聞けて来てよかったと思った。
- ・初めて知れたことがほんとにいっぱいあって、より看護へのモチベーションが上がったし、勉強頑張ろうと思えました。看護の仕事は大変なことばかりだけど、患者さんからエネルギーを持たえたりするって聞いて、看護師になるのが楽しみになりました。ありがとうございました！
- ・たくさんのことを教えて下さりありがとうございます。今日学んだことはとても私にとって感慨深いものとなりました。実際に働いてないとわからないことや小児のことについて今まで思ったこともない話を聞いてすごく良かったです。私が小児科で働きたい理由としてはもちろん子どもが好きという気持ちですが、子どもは先生方もおっしゃられたように先のことをまだ考えられない年で大人とは接し方が違うと思います。なので少しでも子どもの役に立ちたいと思い小児科で働きたいと思いました。
- ・看護師はイメージをすることが大切だとわかりました。わたしは技術面やメンタルケアなどの目に見える面だけしか見てなかったけど今日話を聞いて相手の立場に立って物事を考えることがどれほど大切かがわかりました。私はイメージすることや相手の立場に立って物事を考えるのが少し苦手な方なので今からその力を培って寄り添える看護師ではなく寄り添ってもらえる看護師になりたいと深く思いました。今日はほんとにありがとうございました。
- ・実際に看護師の方のお話を聞くことができ、今までインターネットの情報だけでは曖昧だった部分のはっきりとわかったので良かったです。今回の活動から看護師への興味がより強くなりました。ありがとうございました。
- ・普段聞けないような貴重な話や知らなかったこととか沢山聞けてよかった。

質問2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・糖尿病の患者さんの時のように患者さんに対して失敗したことや反省した時にどのように立ち直りますか。生と死の間際で働く看護師はメンタルをやられる時もあると思うし、大変だと思うこともあると思うのですが、それ以上に働きたいと思うのはどういう原動力があるからですか。（働きがい）
- ・小児看護について調べている時に小児特有の技術が必要と書いてあったのですが、具体的にどのような技術が必要なんですか。

2年生 探究校外活動 岐阜大学訪問

2003. 10. 6



2023 年度 岐阜県立岐山高等学校探究活動

日時：12月8日

場所：岐阜大学看護学科基礎看護実習室

出席者：5名

担当者：中川・大平・金子

回収率：60%

質問1：今回の授業の感想をお聞かせください。

- ・洗髪について学ぶことができ、学生同士の交流の雰囲気を知ることができて学びになりました。
- ・洗髪など初めての体験で不安でしたが、先輩方がとても優しく、わかりやすく指導して下さったので落ち着いて取り組む事が出来ました。また、授業や1人暮らしの事など学生生活全般についてもお話を伺う事ができて嬉しかったです。岐阜大学に入るために勉強頑張ろうと思いました。
- ・授業の雰囲気がよくわかったことで、岐阜大学で看護学を学びたいという気持ちがさらに強くなりました。私は以前入院した際に洗髪していただいたことがあります。あのとき看護師さんがどのようにケアしてくださったのか、今回は患者だったときとは違う視点で見ることができ、私が心地よく感じるために多くの苦労や工夫があったのだとわかりました。岐阜大学で看護学を学び、看護師になれるように、これからも高校での学習を頑張っていきます。見学させていただき、ありがとうございました。

質問2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・洗髪の演習を行うまでどこまで事前学習をするのか気になりました。

・今回、岐阜大学の看護学科の学生のみなさんと講義を受けさせていただいて、すごく貴重な体験をさせていただいたと思っています。洗髪の実践演習ということで、初めて見る道具に戸惑うことが多く、最初は緊張していたこともあり、ぎこちなかったです。でも、グループの学生さんが患者さん役の人に「～しますね。」「大丈夫ですか？」と本当の現場のように声をかける姿があって、「これが私の行きたい場所だ」と実感することができました。講義の中で、洗髪する理由や看護師の行動一つ一つにも意味があるものだということがわかりました。例えば、防水シートとバスタオルを一緒に敷くのは、患者さんに負担をかけないためだとか、一通りベッドの上で準備が終わった後にベッドの高さを上げるのは、看護師は体が基本なので腰を痛めないようになど、全てに意味があることを学びました。また、美容院のように患者さんに目隠しをすると、何をやっているのかわからなくて怖いという意見が多く、患者さんの不安や恐怖感を取り除く方法をグループの垣根を超えて話し合う姿がすごくいいなと思いました。今日の体験で、すごくモチベーションが上がったので岐阜大学を目指して頑張りたいです。

・手順等を全て教わってそのまま行うのではなく、前もって自ら教科書で調べ、考え、そしてそれを実践する。仲間や先生から助言をもらって、より良いやり方にしていくという学び方が、とても自分が学びたい学び方と合っていて、更に岐阜大学で学びたい気持ちが高まった。実際に入院したときに、洗髪していただいた経験があり、あの時、どのように看護師さんがケアしてくださったのか、今まで見られなかった見方で洗髪を見学でき、私が心地良さを感ぜられるために、多くの苦労や工夫があったのだということを今回学び、改めて感謝の気持ちを伝えたくなった。自分が学びたいと感ぜられる学問が看護学であることや、岐阜大学でその学問を学びたいという気持ちが本物であることがわかった。今後はそれらを叶えるために、1日で使える時間は全て勉強に使うくらいの気持ちで、学校での学習も家庭学習も、より質の高い学習にしていきたいと思う。今回いっしょに参加した仲間と比べ、コミュニケーション能力が劣っていると感じたので、今後は学習面だけでなくコミュニケーション面でも能力を高める努力をしていきたい。

・4人1グループで1回演習をした後、違うグループの人たちと情報を交換したり反省点を聞きあったりしていて、雰囲気がとてもよかった。わからない部分は先生に聞き、先生もはっきりとした解答は言わず一緒になって考えてくださるので、よりよい学びができると思いました。洗髪の実践演習の知識は全くなかったけれど、グループの学生さんが優しくリードしてくれて、2回目の演習の時は1回目より参加することができました。学生生活の話も聞き、これからの進路選択の参考にしたいと思いました。患者さんの安心・安全を第一に考えていて、私が考えているより先のことを更に予想して行動していて、今からそういう力をつけたいと思いました。

・講義を受ける前はとても緊張していましたが、先輩方が優しくしてくださって、とても充実した時間を過ごせました。先輩方は、自分が疑問に思ったことを仲間と共有し、日常生活の中からヒントを得て答えを見つけ出そうとしたり、考えた方法をすぐに試したり、紙に書いてあるやり方をそのままやろうとするのではなく、自分たちのやり方を見つけようとしているところが、私と全然違うと思いました。また、チームワークや声のかけ方などの大切さを学びました。役割分担、効率の良い作業なども、今やっている探究活動につながる部分があったので、今後の活動に活かしていきたいです。

・学生さんたちが温かく迎えてくださり、色々なことを教えてくださって、とても楽しくもあり学ぶこともできた実習になりました。大学の授業は、実習を自分たちで考え工夫して行い、その工夫した点を交流し、自分たちも取り入れて再度行っている点が高校の授業とは違うと感じました。大学に入るために勉強を頑張りたいです。



* カーデガンを着ているのが本校の生徒です。

Ⅱ. 専門職を磨く教育プログラム

令和5年度 専門職を磨く教育プログラム活動報告書

1. 本プログラムの目標

時代と地域のニーズに応じて専門的知識・技術を提供できる看護職者を育成する。
専門職者として活躍できる場をつくる。

2. プログラム目標を達成するための本年度の戦略

- 1) 臨床看護師等やその他の要望をもとにした研修会の開催・継続的なかわり
- 2) 臨床で働く看護師との交流の機会の増加
- 3) 卒業生相談窓口の管理・運営

3. 本年度の振り返り

- ・外部の各種団体（名古屋市及び岐阜市教育委員会、揖斐郡学校保健会）や岐阜大学医学部附属病院（看護部）からの要望をもとに、専門職として「女性のライフステージに合わせた健康教育」「性に関する指導」「病院職員に求められる LGBT に対する配慮」などの講演を計 6 回（うち 1 回は Zoom 開催）実施し、参加者は約 640 名であった。研修会の参加者は専門職の他、医療職、学校関係者と保護者および市町村自治会役員や一般の方であった。今年度より、看護職の活躍の場を拓くことも本プログラムの目標として掲げたことで、参加者が増えた結果となった。また、この活動をとおして、看護職の専門性の周知につながったと考える。
- ・4 年ぶりにホームカミングデイを企画し、卒業生と在校生が交流できる機会を設けた。本企画は、3 月の同窓会総会後に卒業生・在校生を対象に実施し、参加者は、卒業生 13 名、在校生 1 名であった。来年度はコロナ禍以前のような在校生との交流やそれに合わせた開催時期等についても検討する必要がある。
- ・卒業生相談窓口への相談はなかった。

4. 次年度への取り組み

- 1) 臨床看護師の看護実践能力向上に向けた研修会等の開催
 - ・看護専門職を中心に、専門的知識や技術を獲得できるための講習会や講演会を実施する。
 - ・看護学科教員が看護専門職として、講習会や講演会の講師を担い、専門職としての活動の範囲を拓くとともに、一般の方の健康増進にも寄与する。
- 2) ホームカミングデイ・在校生交流会の開催
 - ・卒業生と在校生の交流をする場合は、国家試験勉強の仕方や、試験会場の雰囲気など、4 年生の興味関心が高い内容も盛り込み開催する。
 - ・大学院修了生を対象としたホームカミングデイの開催を検討する。
- 3) 卒業生相談窓口の管理・運営の継続
 - ・卒業予定の学生への卒業生相談窓口について周知する。
 - ・相談窓口に寄せられた相談に対する対応する。



令和5年度揖斐郡教育研修総会特集号

令和5年8月2日(水) 13:00~15:20に、揖斐川町揖斐川町地域交流センター「はなもも」で令和5年度の揖斐郡学校保健研修総会を実施しました。揖斐郡学校保健研修総会は年に1回8月上旬に実施しておりますが、コロナウィルス感染症のため、また令和4年度は第61回岐阜県学校保健研修総会で兼ねて実施したため、久しぶりの開催となりましたが、多くの郡内学校保健会関係者の皆様にご参加いただきました。またNPO法人ASTA様、岐阜大学医学部看護学科教授の井關敦子先生のLGBTQ+に関する有意義なご講演をお聞きしました。



本学校保健会だより及び揖斐郡学校保健会ホームページに総会の成果について掲載させていただきますので今後の揖斐郡の学校保健の取組の充実にご活用ください。

お忙しい中ご講演いただきましたASTAの皆様、井關先生、会の運営にご尽力いただきました揖斐郡学校保健会理事のスタッフの皆様、会にご参加いただきました三師会の先生方、PTA会長様、校長先生方、郡学校保健会所属部会の先生方、どうもありがとうございました。

令和5年度 揖斐郡学校保健研修総会の内容

【第1部】 13:00~13:30 総会&表彰式&県大会報告

■ 令和5年度 揖斐郡学校保健会功労者表彰者

学校歯科医 羽田 和彦 様 学校歯科医 島村 憲優 様
学校薬剤師 金森 豊 様 学校薬剤師 伊庭 順子 様

■ 令和5年度 学校環境衛生調査表彰校

最優秀校 大野中学校
優秀校 谷汲小学校 北和中学校 宮地小学校
特選校 中小学校 池田中学校

- ① 歯の健康優良児童事業講評
- ② 郡学校環境衛生活動講評

※①・②に関するご講評の詳細は郡学校保健会HPに掲載させていただきますのでホームページをご覧ください。

- ③ 第61回岐阜県学校保健会報告



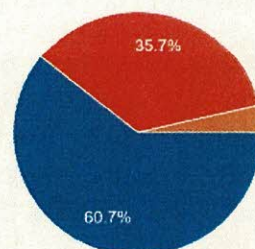
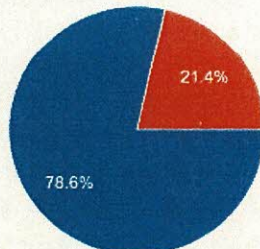
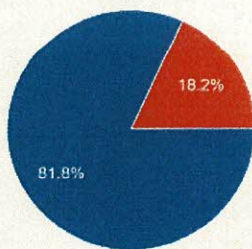
【第2部】 14:00~15:10 講演

演題 「トランスジェンダー、性別不合(性同一性障害)の理解と支援 ~治療をふまえて~」

- ① LGBTQ+の概要について NPO法人 ASTA様
- ② 治療をふまえたトランスジェンダー、性別不合(性同一性障害)の理解と支援について
岐阜大学医学部看護学科 教授 井關 敦子 様のお話
- ③ NPO法人 ASTAの方(3名)のお話(ライフヒストリー)

講演についてのアンケートについて

- (1) 講演の内容について
- (2) 講演の方法について
- (3) 講演の時間設定について



● 十分満足
● ほぼ満足
● やや不満
● 不満

(1) NPO法人ASTAの方のご講演について

① LGBTQ+についての基礎知識やASTAの活動の目的のお話についての感想やご意見、学んだこと

- 幸せって何か、自分がどうしたいのかという思いや気持ちを叶えることが大切だと思います。基礎的な知識からわかりやすい言葉で教えていただきました。ALLY はどんな人もなれるし必要だと感じました。
- 他者理解がとても大切だと分かりました。また、大人の役割が大切だと実感しました。
- 概要を丁寧に説明してもらえたので、体育主任など若手の職員の参考になったと思います。
- 自分自身の体験を堂々と語る姿がすごいと思いました。ここに至るまでにたくさんの苦労があったと思います。多様な人が認められる社会づくりのためにできることをしていきたいと思いました。
- 11人に一人。左利きと同じ割合と言われるとぐっと現実味を帯びます。正しい知識のアップデートが必要だと思います。また、多様性を知り、そのことを受け入れる寛容な心が必要だと思います。自分にその心があるか、悩む子供たちに出会ったときに寄り添えるか、まだ自信がないですが心にとどめたいです。
- 性に関する内容がすごくわかりやすく、全体の流れや今ここなど、説明の仕方も大変参考になりました。LGBTQ+について、改めて学ぶことができ、自分もだれかの ALLY になれたらと思いました。
- 基本的なことも知らず、あまりに自分が今まで無知であったと思いました。基礎的なことも初めて知りました。今まで「当たり前」という固定概念に囚われた思考で過ごしてきており、LGBTQ+の方に対して偏見はありませんが、知らず知らずうちに、マイクロアグレッションを行っていたかもしれません。とても勉強になりました。
- 多種多様な人格、性格を見て、共感、味方にする、本人がどうしたいかを尊重することの大切さを感じました。他人事に思っていないといけない、思えました。
- 生徒の前でカミングアウトする時、勇気が相当必要だったと思いました。いつかカミングアウトする時が来る・・・隠しているわけではないけれど、生徒たちの反応が怖い。当事者にしかわからない気持ちを知ることができました。そしてそれを受けた生徒の反応が先生を思いやるものだったと聞いて、素晴らしいと思いました。
- LGBTQ+についての講話や勉強をする機会が増えていますが、それでもまだ理解できていないことがたくさんあるのだと気づかされました。まずは私たち教員、大人がもっと LGBTQ+についての理解を深めることが大切であり、できることを考えていかなければならないと思いました。
- 自身が理解を深めること。誰に対しても寄り添うこと、自己肯定感の重要性を学びました。他者の性自認や性的指向に関係なく、多様性を尊重しながら、誰かの ALLY になりたいと思いました。
- 当事者としての話を聞かせていただいて、こうやって悩んでいる人はたくさんいるんだなと感じました。今でこそ今回のように気丈に話をしてくださったけど、当時はとても悩んだのだろうなと思うと理解は大切だなと感じました。身近にそういう悩みを抱えている人はいると思うのえ、そういう人たちがこの人になら相談したいなと思える 1 人に自分になれるように知識を身に付けていきたいと感じました。



② ASTAの方のライフストーリーのお話についての感想や意見、学んだこと

- 差別や故意がなくても傷つけることを知りました。様々な辛さ、出会った人たちとの関わりや変化を実体験をもってお伝えいただきありがとうございました。
- 自身の経験と思いを語っていただけたので、実感を伴って理解ができました。自分自身の生の体験に心を動かされました。ALLY の存在がとても大切だと思います。また、子供の近くにいる大人として何が考えるきっかけになりました。
- 私はこれまで、「こういう方々がいる」という講話があっても、LGBTQ+について他人事として捉えている部分がありました。でも今回の講話は、話してくださった方ご本人がこれまで LGBTQ+ について悩んできた方々で、これまでの苦しかった経験を語られていたことに、とても刺激を受けました。自分の周りには、LGBTQ+ で苦しんでいる子はいないと思っていたけれど、そうではなくて、ただ知らないだけであり、どこかに必ずいるという意識を持つことが大切だと思います。また、今回講話を聞くことができたことや、自分は教員であることから、悩んでいる児童や友人に対して手を差し伸べることでできる「アライ」でありたいと思いました。
- 衝撃でした。言葉としては知っていても、自分事としてとらえていませんでした。教員として、親

LGBT・性別不合（性同一性障害）と医療

《主催者・共催者（医学部看護学科）より》

LGBT や性別不合（性同一性障害）について医療に携わる者が知ることは重要であると言われてはいますが、情報を得る機が少ない現状です。そこでこのたび、簡単な基礎知識の講義とLGBT 当事者さんおよびご家族との交流を通して、私達ができる支援を考える機会にさせていただきたいと考え、このたび看護部の協力をいただき、この研修会を開催させていただくこととなりました。

《主催者および特定非営利法人ASTAより、研修会当日にお願いしたいこと》

- ・恐れ入りますが、アンケートへの協力とご寄付をお願いしたいので、筆記用具と、できればお財布もお持ちください。
- ・どうぞ、ASTAの活動を、資金面でもご支援ください。



1口500円以上で、Ally（支援者）Goods（キーホルダー、マグネット等）をお配りいたします。

ご寄付はASTAの活動（学校、企業等への出張研修）資金として活用いたしますので、どうぞ協力をお願いします。

日時：令和5年11月7日（火） 13:00～15:00

講師：井關敦子（医学部看護学科） 松岡成子（特定非営利活動法人ASTA 代表）

会場：岐阜大学医学部附属病院 1階 多目的ホール

対象者：看護職、事務職

定員：25～30名程度

研修に関する問い合わせ：岐阜大学医学部附属病院看護部 ○○（内線：○○○○）

《タイムスケジュール》

時間	内容	時間	内容
13:00～13:05	あいさつとアンケート	13:55～14:15	グループワーク①
13:05～13:30	基礎知識（松岡）	14:15～14:35	グループワーク②
13:30～13:55	井關（岐阜大学）	14:35～14:55	グループワーク③
		14:55～15:00	事後アンケート



主催：LGBTおよび性別不合の理解を社会に促す研究会（代表：岐阜大学医学部看護学科 母性看護学 井關敦子）

共催：岐阜大学医学部看護学科 地域貢献事業

協力：岐阜大学医学部附属病院看護部

特定非営利活動法人ASTA（本部：名古屋市瑞穂区）

（教職員/保護者/児童生徒/企業に向けて性の多様性や人権の啓発活動を実施）



岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会
卒業生集まれ!! 専門職を磨く教育プログラム(卒業生支援)



mini Home Coming Day

&看護学科同窓会総会



卒業生の皆様、新型コロナウイルス禍では医療の最前線でご尽力いただき感謝申し上げます。さて、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行し、コロナ前の生活に戻りつつあります。

そこで今回、なんと5年ぶりに「Home Coming Day」が復活です!! 久しぶりに会う仲間と交流し、元気をもらいませんか? “笑う門には福来る”です!

皆さんお誘いのうえ是非ご参加ください。

開催日時

2024年3月15日(金) 18:00~19:00

スケジュール

- ◆18:00~ 看護学科同窓会総会
 1. 次期役員について
 2. その他
- ◆18:15~ mini Home Coming Day

会場

岐阜大学医学部看護学科 講義室 1

対象

岐阜大学医学部看護学科卒業生
岐阜大学医学部看護学科教員



問い合わせ

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト

TEL 058-293-3218 〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1

E-Mail sien_gun@t.gifu-u.ac.jp



第4回 mini Home Coming Day アンケート結果

開催日時：令和6年3月15日(金)18時～19時10分

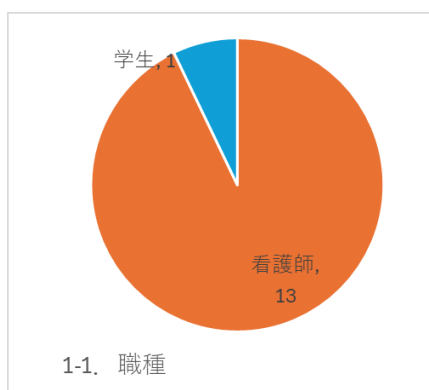
場所：看護学科 講義室1

参加者：卒業生13名, 在校生1名, 教員3名

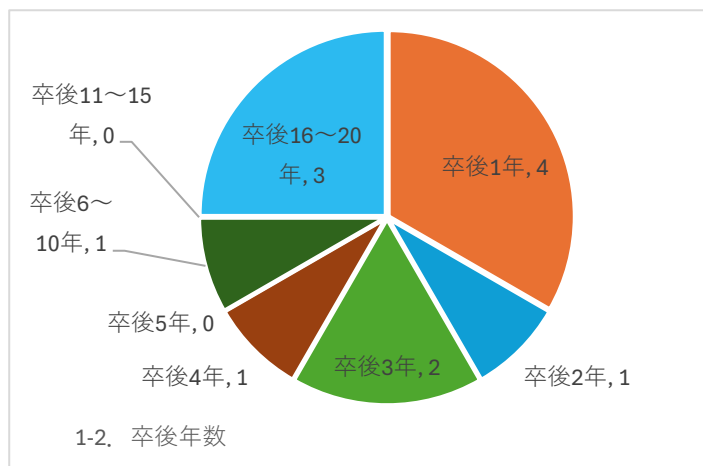
アンケート結果

I. ご自身についてお伺いします。

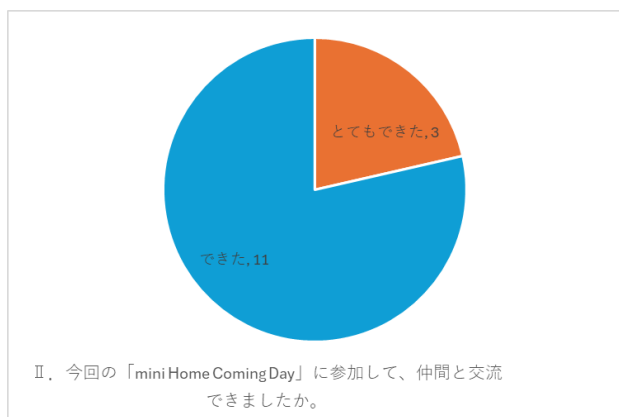
問1 職種



問2 卒後年数



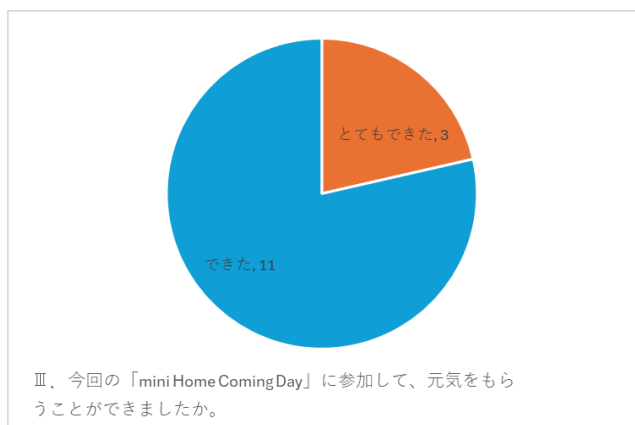
II. 今回の「mini Home Coming Day」に参加して、仲間と交流できましたか。



自由意見

- ・上の先輩方の話を聞くことができてよかった。
- ・職場が同じ人が多く、縦のつながりができてよかった。

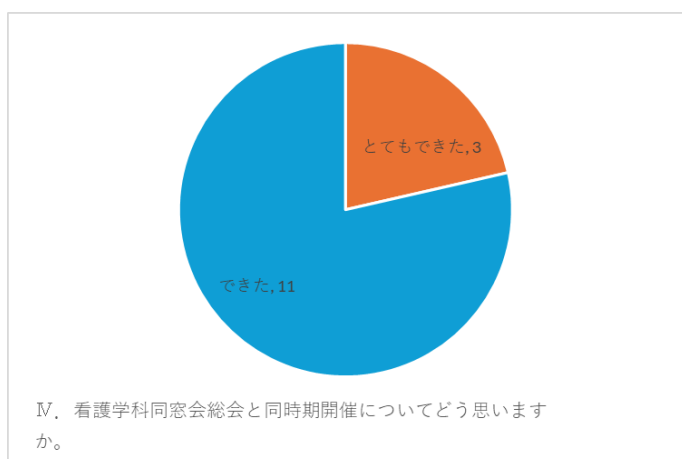
Ⅲ. 今回の「mini Home Coming Day」に参加して、元気をもらうことができましたか。



自由意見

- ・いろいろな話げできた。

Ⅳ. 看護学科同窓会総会と同時期開催についてどう思いますか。



Ⅴ. 今回の「mini Home Coming Day」&看護学科同窓会総会についてご意見などご自由にお書きください。

- ・久々に看護学科棟に来てよかったです。ほかの部署の話を聞いて年代も違う人の話を聞いて良かったです。
- ・年代、部署が違う人との交流ができてよかったです。

参加者風景

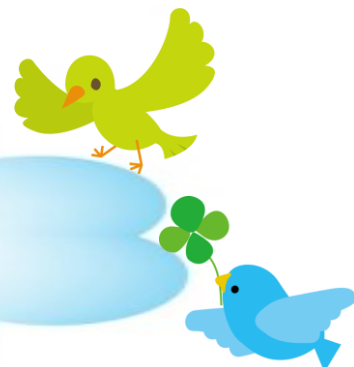




岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

専門職を磨く教育プログラム(卒業生支援)

卒業生相談窓口のご案内



岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会では、卒業生のための相談窓口を令和2年度に開設し、これまでも研究相談や進路相談などの多くの相談を受けてきました。

就職後も困ったこと・就業相談・進路相談・研究相談・メンタルヘルス相談などどんなことでも、まずはお気軽にご連絡・ご相談ください。専門職を磨く教育プログラム担当者が窓口となり、適切に対応できる教員等をご紹介します。

個人情報 は 厳重に 保護 いたしますので、ご安心ください。

sien_gun@t.gifu-u.ac.jp もしくはQRコードへ送信ください。

文面に①～④について 差し支えない範囲で記載して送信ください。

① 卒業年度 ② 氏名 ③ 就業場所 ④ 相談内容



問い合わせ

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト

TEL 058-293-3218 〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1

E-Mail sien_gun@t.gifu-u.ac.jp



Ⅲ. 看護研究支援プログラム

令和5年度 看護研究研修会 報告書

1. 目的

看護の質の向上のためには、看護研究は欠かせないものとなっているが、臨床の場における看護研究に対するサポート体制は、各機関によってさまざまであり、整っていない現状が散見される。そこで、岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会の看護研究研修会班においては、初めて看護研究に取り組むことになった看護職及び看護研究に行き詰まっている看護職を対象に、看護研究研修会を開催する。基本的な看護研究に関する知識や技術の向上に資する講義を行うことと、担当者全員による個人・施設単位の個別研究相談を行い、岐阜県の看護専門職が研究活動を通して自らの専門性を磨くことを支援する。

2. 目標

- 1) 新型コロナウイルス感染症の動向を鑑み、感染対策を継続して看護研究研修会を運営する。
- 2) 看護研究を支援するための研究による知見を活かした個別指導を行う。
- 3) 看護研究研修会の開催を対面と Zoom の双方を用いたハイブリッド型で行う。
- 4) 出張看護研究研修会を複数回開催し、個別相談に対しても柔軟に対応する。

	日程	内容	時間	参加者数
第1回	2023年 3月24日 (木曜日)	講義 (担当: 小木曾加奈子) ・テーマの見つけ方 ・文献の入手の仕方 個別相談会 (担当: 全員)	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会	31名 = 対面13名(学生参加1名) + Zoom 26名
第2回	2023年 5月26日 (金曜日)	講義 (担当: 牧茂義) ・質的研究の初歩 ・インタビューのすすめ方 個別相談会 (担当: 全員)	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会	27名 = 対面5名 + Zoom 22名
第3回	2023年 7月25日 (火曜日)	講義 (担当: 西田友子) ・アンケートの作り方 ・量的結果のよみとき方 個別相談会 (担当: 全員)	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会	38名 = 対面13名(講義のみ6名) + Zoom 25名(講義のみ5名, 個人相談のみ2名)
第4回	2023年 9月12日 (火曜日)	個別相談会 (担当: 全員)	13:30~17:00	23名 = 対面4名、Zoom 19名
第5回	2023年 12月 4日 (月曜日)	講義 (担当: 竹下美恵子) ・研究結果の伝え方 ・結果と考察の書き方 個別相談会 (担当: 全員)	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会	23名 = 対面7名、Zoom 16名(講義のみ4名、個別相談のみ4名)
第6回	2024年 2月 5日 (月曜日)	個別相談会 (担当: 全員)	13:30~17:00	17名 = 対面1名、Zoom 16名

3. 活動内容

1) 岐阜大学における看護研究研修会

2023年3月~2024年2月にかけて、看護研究研修会を6回実施した。6回の研修会の延べ参加者数は、159名であった。その実績は前述のとおりである。

2) 出張における看護研究研修会

2023年3月～2024年3月にかけて、看護研究研修会を5回実施した。5回の研修会の延べ参加者数は、96名であった。その実績は以下のとおりである。

	出張場所	内容	日時	講義参加	個別相談
1	東濃厚生病院 Zoom	講義 (担当：小木曾加奈子) ・テーマの見つけ方 ・文献の入手の仕方 個別相談会：社本・小木曾	2023年8月3日 (水曜日) 14:00-15:30	18名	無
2	岐阜大学病院	講義 (担当：牧茂義) ・質的研究の初歩 ・インタビューのすすめ方 個別相談会：牧・三尾	2023年8月16日 (水曜日) 15:00-16:30	10名	無
3	岐阜赤十字病院	講義 (担当：牧茂義) ・質的研究の初歩 ・インタビューのすすめ方 個別相談会：牧・森下	2023年8月24日 (木曜日) 15:00-16:30	24名	無
4	岐阜赤十字病院	講義 (担当：西田友子) ・アンケートの作り方 ・量的結果のよみとき方 個別相談会：西田・社本	2023年10月25日 (水曜日) 17:30-19:00	24名	無
5	岐阜赤十字病院	講義 (担当：竹下美恵子) ・研究結果の伝え方 ・結果と考察の書き方 個別相談会：竹下・西田	2024年3月6日 (水曜日) 17:30-19:00	20名	無

3) 看護研究を支援するための研究

2023年度は、看護職の臨床看護研究を進めるための、3年計画の調査を行うこととなり、その準備段階としての文献研究を学会にて発表した。

(1) 学会発表

- ・前田由紀, 牧茂義, 小木曾加奈子, 西田友子, 社本生衣, 三尾亜喜代, 森下智美, 竹下美恵子：
臨床において看護研究を進めるために必要な職場での支援, 第70回日本教育医学会記念大会, 2023年8月22-23日, ウィンク愛知(愛知県).

(2) 論文投稿

- ・前田由紀, 牧茂義, 小木曾加奈子, 西田友子, 竹下美恵子, 社本生衣, 三尾亜喜代, 森下智美：
臨床において看護研究を進めるために必要な職場での支援と関連要因に関する文献研究, 福祉と看護の研究誌, 10, 73-82, 2023.

4. 活動評価および課題

2023年度研修会の参加者に対するアンケートをもって、活動評価および課題を明らかにした。

4-1) 方法

6回の看護研究研修会参加者に対して、紙面でのアンケート及びZoomでの参加の場合は、Google Formsを用いてアンケートを実施した。

4-2) 結果

看護研究研修会の開催に関して、研修会の学びを活かせようであるという者がほとんどであり、個別相談に対する満足も高いことが示された。

令和5年3月24日 看護研究研修会「講義・個別相談」アンケート結果

アンケート実施日：2023年3月24日(金)

研修参加者数：31名 = 対面5名(個別相談のみ1名, 講義のみ=学生1名)

+ Zoom26名(講義のみ8名, 個人相談のみ18名)

アンケート配布部数：31部 = 対面5部(学生1部) + Zoom26部

回収部数：10部(回収率.%) = 対面5部 + Zoom5部

I. アンケート対象者

n=10

		人数	%
0) 参加形態	対面	5	50.0
	Zoom	5	50.0
1) 取得免許・資格 (複数回答可)	保健師	0	0.0
	助産師	0	0.0
	看護師	9	90.0
	その他 ・ 学生, 看護師免許取得予定	1	10.0
3) 研究教育を受けたことが あるか(複数回答可)	① ない	3	30.0
	② ある	7	70.0
	1 大学	3	(42.9)
	2 大学院	0	(0.0)
	3 看護協会等職能団体の研修会	3	(42.9)
	4 その他 ・ 短大	1	(14.2)
4) 研究実施経験 (複数回答可)	① ない	6	60.0
	② ある	4	40.0
	1 院内発表	3	(75.0)
	2 看護協会等県内発表	0	(0.0)
	3 学術集会等全国学会での発表	1	(25.0)
4 その他	0	(0.0)	
5) 研究の支援体制	① ない	3	30.0
	② ある	5	50.0
	・ オンデマンド教育	1	(20.0)
	・ 面接, 上司の相談体制	1	(20.0)
	・ 不明 (このように記載されていた)	1	(20.0)
	・ 無回答	2	(40.0)
	・ 無回答	2	20.0
6) 前回参加	① 参加した ・ 1回	4	40.0
	② わからない	2	20.0
	③ 参加しなかった	4	40.0

	最高値	最低値	平均値±SD
2) 経験年数	29	0	10.10±8.50

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか

n=10

	前回のお知らせ	ダイレクトメール	ホームページ	その他	無回答
人数	2	1	0	7	0
%	20.0	10.0	0.0	70.0	0.0

その他の回答

・上司より ・紙面 ・閲覧 ・病院の回覧 ・師長にパンフレットを頂いた ・院内での案内 ・職場の上司

2. 参加の経緯について

n=10

	自分の希望	上司からの推薦	組織からの派遣	その他	無回答
人数	8	2	0	0	0
%	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0

3. 講演の内容は、今後の看護研究に活かすことができそうですか

n=10

	活かそう	少し活かそう	どちらでもない	あまり活かそうにない	活かそうにない	無回答
人数	9	0	0	0	0	1
%	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0

回答理由

- ・ インターネットでの文献の入手の仕方を理解することが
- ・ まとめ方について教えて頂いたので、教えて頂いたことをいかしてまとめていきたいです。
- ・ 分かりやすい説明でした
- ・ 疑問や不安に思っていたところが解消できた。

4. 個別・施設単位の相談は、満足できる内容でしたか

n=10

	満足した	やや満足した	どちらでもない	やや不満足	不満足	無回答
人数	6	2	0	0	0	2
%	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0

回答理由

- ・ 研究方法がわかった
- ・ 参加していません
- ・ オンライン参加が出来たので、コロナで出勤できないスタッフとも共有することができた。zoom の共有機能がとても使いやすく、対面よりも良いと感じた。
- ・ 相談したい事を解決できたから

5. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか

n=10

	活かそう	少し活かそう	どちらでもない	あまり活かそうにない	活かそうにない	無回答
人数	7	1	0	0	0	2
%	70.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0

回答理由

- ・ 近くだったら、参加したいです
- ・ 相談したいことを解決でき、また新たに学びを深めることができたため
- ・ 疑問点が解消したのと、分析方法が定まり、次に何に取り組めば良いのか明確になった。

6. 今回の看護研究研修会の開催時期について

n=10

	適切である	どちらともいえない	考慮した方がよい	無回答
人数	8	1	1	0
%	80.0	10.0	10.0	0.0

回答理由

- ・ もっと回数を増やしていただきたいです
- ・ 院内の研究の少し早めであり、自分たちのタイミングと合っていたため
- ・ テーマ決めの段階は過ぎていたので、講習とのズレがあった。
- ・ 来年度の看護研究実施予定のため

7. 今回の看護研究研修会の開催場所について

n=10

	適切である	どちらともいえない	考慮した方が良い	無回答
人数	8	1	0	1
%	80.0	10.0	0.0	10.0

回答理由

- ・ 近くでもなく、とても遠くでもないですが、すぐに行くことができない距離です
- ・ zoomでの参加が出来たため
- ・ リモートで参加できたから。
- ・ zoomが良かった。

8. 今回の看護研究研修会の開催時間の設定について

n=10

	適切である	どちらともいえない	考慮した方が良い	無回答
人数	8	1	0	1
%	80.0	10.0	0.0	10.0

回答理由

- ・ もっと長くても良かったです
- ・ 勤務時間に行えた。調整しやすい時間であった。

Ⅲ. 看護研究研修会で取り上げてほしいテーマ・内容（複数回答可）

n=10

項目	人数	%	項目	人数	%
① 研究テーマのしぼり方	3	30.0	⑨ 質的研究のデータ収集方法	4	40.0
② 文献検索方法	2	20.0	⑩ 量的研究の方法	5	50.0
③ 研究計画書の作成方法	5	50.0	⑪ 倫理的配慮	3	30.0
④ 質問紙の作成方法	5	50.0	⑫ 結果から図表の作成方法	4	40.0
⑤ データ入力の仕方	4	40.0	⑬ 抄録の書き方	6	60.0
⑥ 結果の分析方法	5	50.0	⑭ 発表の仕方	2	20.0
⑦ 結果の読み解き方	4	40.0	⑮ 論文の書き方	5	50.0
⑧ 質的研究の方法	4	40.0	⑯ その他	0	0.0

Ⅳ. 意見等

- ・ 今回も、相談したいことが解決でき、また学びを深めることができました。ありがとうございました。また次回もよろしくお願い致します。

Ⅴ. Zoom開催に関する意見(Zoom参加者のみ)

- ・ とてもよかったです。またよろしくお願い致します。
- ・ 問題なく行えました。

令和5年5月26日 看護研究研修会「講義・個別相談」アンケート結果

アンケート実施日：2023年5月26日(金)

研修参加者数：27名 = 対面5名(講義のみ3名)

+ Zoom22名(講義のみ4名, 個人相談のみ2名)

アンケート配布部数：27部 = 対面5部 + Zoom22部

回収部数：13部(回収率 48.1%) = 対面5部 + Zoom8部

I. アンケート対象者

n=13

		人数	%
0) 参加形態	対面	5	38.5
	Zoom	8	61.5
1) 取得免許・資格 (複数回答可)	保健師	2	15.4
	助産師	0	0.0
	看護師	13	100.0
3) 研究教育を受けたことがあるか(複数回答可)	① ない	9	69.2
	② ある	4	30.8
	1 大学	2	(50.0)
	2 大学院	0	(0.0)
	3 看護協会等職能団体の研修会	1	(25.0)
	4 その他	0	(0.0)
4) 研究実施経験 (複数回答可)	① ない	6	46.2
	② ある	6	46.2
	1 院内発表	5	(83.3)
	2 看護協会等県内発表	2	(33.3)
	3 学術集会等全国学会での発表	0	(0.0)
	4 その他	0	(0.0)
	無回答		7.7
5) 研究の支援体制	① ない	2	15.4
	② ある	10	76.9
	・ 研修参加の案内	1	(10.0)
	・ 学校が併設で一応ある	1	(10.0)
	・ 前年度研究者が流れなど教えてくれるのみ	1	(10.0)
	・ 管理者による研究アドバイスと外部講師との調整	1	(10.0)
	・ 具体的には知りません	1	(10.0)
	・ 研究委員からのアドバイス	1	(10.0)
・ 研究支援委員会	1	(10.0)	
	無回答	1	7.7
6) 前回参加	① 参加した	10	76.9
	・ 1回	3	(30.0)
	・ 2回	4	(40.0)
	・ 3回	1	(10.0)
	・ 5回	1	(10.0)
	無回答	1	(10.0)
	② わからない	1	7.7
③ 参加しなかった	2	15.4	

	最高値	最低値	平均値±SD
2) 経験年数	29	1	11.85±7.95

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか

n=13

	前回のお知らせ	ダイレクトメール	ホームページ	その他	無回答
人数	8	1	0	4	0
%	61.5	7.7	0.0	30.8	0.0

その他の回答

・病院より ・病院より ・前回の参加者 ・職場

2. 参加の経緯について

n=13

	自分の希望	上司からの推薦	組織からの派遣	その他	無回答
人数	9	3	1	0	0
%	69.2	23.1	7.7	0.0	0.0

3. 講演の内容は、今後の看護研究に活かすことができそうですか

n=13

	活かそう	少し活かそう	どちらでもない	あまり活かそうにない	活かそうにない	無回答
人数	9	3	1	0	0	0
%	69.2	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0

回答理由

- ・ 実際の例を話してくれたので、分かりやすかった
- ・ 質的研究を行う予定だったのでいい勉強会になった。
- ・ 質的研究の具体的な進め方がわかった
- ・ 講義内容が分かりやすかったです。職場に研究の支援体制がほとんどないため、大変参考になりました。
- ・ 質的か量的研究にするか検討中のため。
- ・ 質的研修に関わったのがかなり前なので復習になりました。
- ・ 具体的な事例で分かりやすかった

4. 個別・施設単位の相談は、満足できる内容でしたか

n=13

	満足した	やや満足した	どちらでもない	やや不満足	不満足	無回答
人数	5	2	1	0	0	5
%	38.5	15.4	7.7	0.0	0.0	38.5

回答理由

- ・ 自分の研究の方向性がクリアになりました。
- ・ 研究に活かせると思った
- ・ 悩んでいることを解決できたため
- ・ 相談していません
- ・ 不明
- ・ 研究テーマが質的研究ですすめていくことで良いと理解できた

5. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか

n=13

	活かそう	少し活かそう	どちらでもない	あまり活かそうにない	活かそうにない	無回答
人数	7	1	1	0	0	4
%	53.8	7.7	7.7	0.0	0.0	30.8

回答理由

- ・ 相談していません
- ・ 先生と顔を合わせての相談で心強いです
- ・ 個別の対応が分かりやすかった
- ・ 的確なアドバイスをいただいたため

6. 今回の看護研究研修会の開催時期について

n=13

	適切である	どちらともいえない	考慮した方がよい	無回答
人数	12	1	0	0
%	92.3	7.7	0.0	0.0

回答理由

- ・ 考えようとしている時期であるから
- ・ 今年度取り組もうと思ったところなので、ちょうどよかったです
- ・ 2ヶ月おきなので、余裕がよい

7. 今回の看護研究研修会の開催場所について

n=13

	適切である	どちらともいえない	考慮した方が良い	無回答
人数	13	0	0	0
%	10.0	0.0	0.0	0.0

回答理由

- ・ 近い
- ・ 急遽 zoom での参加に対応していただき、ありがとうございました。
- ・ リモートで参加出来るので、参加しやすい
- ・ zoom での参加ができ、勤務中でも参加できたためありがたいです

8. 今回の看護研究研修会の開催時間の設定について

n=13

	適切である	どちらともいえない	考慮した方が良い	無回答
人数	12	1	0	0
%	92.3	7.7	0.0	0.0

回答理由

- ・ 当院のかんごけんきゅの活動としては3月くらいから始動しているためもう少し早いと良いのかと思います。(そのまま表記)
- ・ いい位の長さでした。
- ・ 2ヶ月おきで適切

Ⅲ. 看護研究研修会で取り上げてほしいテーマ・内容 (複数回答可)

n=13

項目	人数	%	項目	人数	%
① 研究テーマのしぼり方	3	23.1	⑨ 質的研究のデータ収集方法	5	38.5
② 文献検索方法	1	7.7	⑩ 量的研究の方法	4	30.8
③ 研究計画書の作成方法	4	30.8	⑪ 倫理的配慮	4	30.8
④ 質問紙の作成方法	1	7.7	⑫ 結果から図表の作成方法	6	46.2
⑤ データ入力の仕方	3	23.1	⑬ 抄録の書き方	8	61.5
⑥ 結果の分析方法	6	46.2	⑭ 発表の仕方	5	38.5
⑦ 結果の読み解き方	5	38.5	⑮ 論文の書き方	7	53.8
⑧ 質的研究の方法	2	15.4	⑯ その他	0	0.0

Ⅳ. 意見等

- ・ 看護研究というと難しいイメージだが、身近で疑問に思った事からテーマが決まると聞くと、できる気がしてきました

Ⅴ. Zoom 開催に関する意見(Zoom 参加者のみ)

- ・ 機器のトラブルで音声伝わらない事がありました
- ・ いつも、的確なアドバイスをいただき、ありがとうございます。またよろしく願い致します。

令和5年7月25日 看護研究研修会「講義・個別相談」アンケート結果

アンケート実施日：2023年7月25日(火)

研修参加者数：38名 = 対面13名(講義のみ6名)
 + Zoom25名(講義のみ5名, 個人相談のみ2名)

アンケート配布部数：38部 = 対面13部 + Zoom25部

回収部数：15部(回収率 39.5%) = 対面13部 + Zoom2部

I. アンケート対象者

n=15

		人数	%
0) 参加形態	対面	13	86.7
	Zoom	2	13.3
1) 取得免許・資格 (複数回答可)	保健師	1	6.7
	助産師	1	6.7
	看護師	13	86.7
	その他	2	13.3
3) 研究教育を受けたことがあるか(複数回答可)	① ない	9	60.0
	② ある	6	40.0
	1 大学	5	(83.3)
	2 大学院	0	(0.0)
	3 看護協会等職能団体の研修会	1	(16.7)
	4 その他	0	(0.0)
4) 研究実施経験 (複数回答可)	① ない	9	60.0
	② ある	5	33.3
	1 院内発表	3	(60.0)
	2 看護協会等県内発表	3	(60.0)
	3 学術集会等全国学会での発表	0	(0.0)
	4 その他	1	(20.0)
無回答	1	6.7	
5) 研究の支援体制	① ない	5	33.3
	② ある	8	53.3
	・ 看護短大	1	(12.5)
	・ 不明	2	(25.0)
	・ 話をきいてくれる	1	(12.5)
	・ 看護部院内プログラム	1	(12.5)
	・ 支援委員会	1	(12.5)
	・ 無回答	2	(25.0)
無回答	2	13.3	
6) 前回参加	① 参加した	7	46.7
	・ 1回	5	(71.4)
	・ 2回	1	(14.3)
	・ 3回	1	(14.3)
	② わからない	0	0.0
	③ 参加しなかった	8	53.3

	最高値	最低値	平均値±SD
2) 経験年数	29	0	12.86±8.51

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか

n=13

	前回のお知らせ	ダイレクトメール	ホームページ	その他	無回答
人数	5	0	0	10	0
%	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0

その他の回答

- ・院内研修プログラム
- ・施設からのお知らせ
- ・職場のおしらせ
- ・病院から
- ・担当教員から教えていただいた
- ・先生から
- ・看護部からの紹介

2. 参加の経緯について

n=13

	自分の希望	上司からの推薦	組織からの派遣	その他	無回答
人数	9	3	1	1	1
%	60.0	20.0	6.7	6.7	6.7

3. 講演の内容は、今後の看護研究に活かすことができそうですか

n=13

	活かそう	少し活かそう	どちらでもない	あまり活かそうにない	活かそうにない	無回答
人数	9	2	2	1	0	1
%	60.0	13.3	13.3	6.7	0.0	6.7

回答理由

- ・意識調査
- ・データの種類やそれによる分析方法について具体的に知ることができた
- ・量的研究について学べた
- ・アンケートの作成やまとめる際に注意する点を聞くことが出来ました
- ・内容が難しい
- ・わかりやすかったから

4. 個別・施設単位の相談は、満足できる内容でしたか

n=13

	満足した	やや満足した	どちらでもない	やや不満足	不満足	無回答
人数	6	2	2	0	0	5
%	40.0	13.3	13.3	0.0	0.0	33.3

回答理由

- ・不参加

5. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか

n=13

	活かそう	少し活かそう	どちらでもない	あまり活かそうにない	活かそうにない	無回答
人数	5	3	1	0	0	6
%	33.3	20.0	6.7	0.0	0.0	40.0

回答理由

- ・不参加

6. 今回の看護研究研修会の開催時期について

n=13

	適切である	どちらともいえない	考慮した方が良い	無回答
人数	12	2	0	1
%	80.0	13.3	0.0	6.7

回答理由

- ・

7. 今回の看護研究研修会の開催場所について

n=13

	適切である	どちらともいえない	考慮した方が良い	無回答
人数	12	2	0	0
%	80.0	13.3	0.0	0.0

回答理由

- ・分かりにくい
- ・ハイブリッドで対応していただけるのでありがたいです。

8. 今回の看護研究研修会の開催時間の設定について

n=13

	適切である	どちらともいえない	考慮した方がよい	無回答
人数	12	1	0	2
%	80.0	6.7	0.0	13.3

回答理由

- ・ 午後からは良かった

Ⅲ. 看護研究研修会で取り上げてほしいテーマ・内容（複数回答可）

n=13

項目	人数	%	項目	人数	%
① 研究テーマのしぼり方	9	60.0	⑨ 質的研究のデータ収集方法	1	6.7
② 文献検索方法	1	6.7	⑩ 量的研究の方法	1	6.7
③ 研究計画書の作成方法	7	46.7	⑪ 倫理的配慮	3	20.0
④ 質問紙の作成方法	1	6.7	⑫ 結果から図表の作成方法	3	20.0
⑤ データ入力の仕方	3	20.0	⑬ 抄録の書き方	5	33.3
⑥ 結果の分析方法	4	26.7	⑭ 発表の仕方	5	33.3
⑦ 結果の読み解き方	5	33.3	⑮ 論文の書き方	8	53.3
⑧ 質的研究の方法	2	13.3	⑯ その他	0	0.0

Ⅳ. 意見等

- ・ 準備等、ありがとうございました。実際の参加に対しても、丁寧に対応していただき、感謝しております。今回の資料と、スライドが一部ないものがありました。資料だけでは繋がらない部分がありますが、まずは改めて学習しておきます。

Ⅴ. Zoom 開催に関する意見(Zoom 参加者のみ)

- ・ 特にありません。

令和5年9月12日 第4回看護研究研修会個別相談アンケート結果

アンケート実施日：2023年9月12日（火）

研修参加者数：23名（対面4名、ZOOM19名）

アンケート配布部数：23部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数：3部（回収率 13.0%）

I. アンケート対象者

n = 3

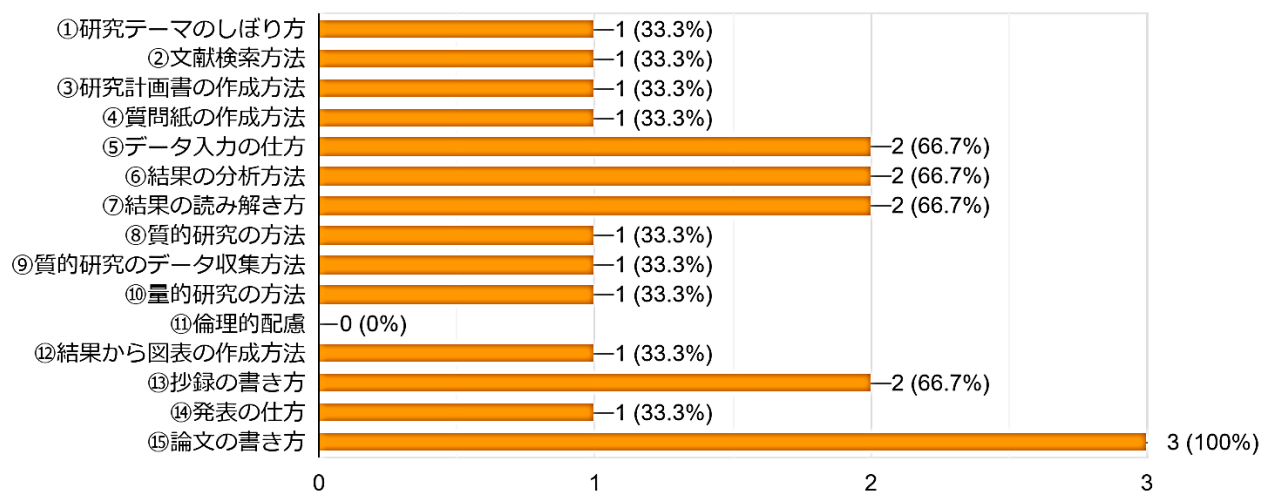
項目	内容	人数	%
1) 取得免許・資格 (複数回答可)	看護師	3	100.0
2) 現在の職場での経験年数	①10年以上	2	66.7
	②10年未満	1	33.3
2) 研究教育を受けたことがあるか (複数回答可)	①ない	2	66.7
	②ある	1	33.3
3) 研究実施経験 (複数回答可)	①ない	2	66.7
	②ある ・看護協会等職能団体の研修会	1	33.3
4) 研究実施経験 (複数回答可)	①ない	2	66.7
	②ある ・院内発表	1	33.3
5) 研究の支援体制	①ない	0	0
	②ある ・時間調整 ・師長や主任からの助言	3	100.0
6) 前回までの参加	①参加した ・5回 ・1回	2	66.7
	②参加していない	1	33.3

II. 本日の研修会について

項目	内容	人数	%
1. どのように研修会を知ったか	①前回のお知らせ	2	66.7
	②その他 ・主任から教えてもらった	1	33.3

2.参加の経緯	自分の希望による	3	100.0
3.相談は満足できる内容であったか	満足 ・抄録を掲載する上での悩みが解決した ・聞きたいことが聞けた	3	100.0
4.今後の研究活動に活かせるか	活かせそうである ・まとめ方の参考となった ・分析方法がわかった	3	100.0
5.今回の研修会の開催時期について	適切である ・分析を始めるタイミングに合った	3	100.0
6.今回の研修会の開催場所について	適切である ・ZOOM でどこでも受けられる ・個室で静かであった	3	100.0
7.今回の研修会の開催時間について	適切である ・事前に聞きたいことをまとめていたため 30 分は適切であった	3	100.0

III.看護研究研修会で取り上げてほしいテーマ・内容について（複数回答可）



IV.意見等

- ・ 30 分で質問をまとめておくことと、機械の使い方を学んでおくべきだと思いました。森下先生ありがとうございました。 院外発表できるようがんばります。

令和5年12月4日 第5回看護研究研修会個別相談アンケート結果

アンケート実施日：2023年12月4日（月）

研修参加者数：23名＝対面7名（講義のみ3名）

ZOOM 16名（講義のみ5名）

アンケート配布部数：23部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数 15部（回収率 65.2%）

I. アンケート対象者

n = 15

		人数	%
1) 取得免許・資格 (複数回答可)	① 保健師	2	13.3
	② 助産師	1	6.7
	③ 看護師	15	100
2) 現在の職場での経験年数	① 10年以上	9	60
	② 10年未満	6	40
3) 研究教育を受けたことがあるか (複数回答可)	① ない	7	46.7
	② ある	8	53.3
【ある】の内容 (複数回答可)	① 大学	3	37.5
	② 大学院	0	0
	③ 職能団体の研修会（看護協会等）	3	37.5
	④ 院内	1	12.5
	⑤ その他（未記入）	1	12.5
4) 研究実施経験 (複数回答可)	① ない	7	46.7
	② ある	8	53.3
【ある】の内容 (複数回答可)	① 院内発表	6	75
	② 看護協会等での県内発表	2	25
	③ 学術集会等の全国学会での発表	4	50
	④ その他（未記入）	1	12.5
5) 研究の支援体制	① ない	1	6.7
	② ある	14	93.3

【ある】の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護部教育 ・ 勤務内での研修の参加 ・ 研究委員会 ・ 研究の取り組み方 ・ 外部講師の相談 ・ 外部講師のアドバイス ・ 外部講師の協力がある ・ 上司が協力してくれる。院内にサポート体制がある。 ・ 経験者が相談、指導する ・ アドバイス ・ 研修 ・ 大学教授の個人相談 ・ 研究支援委員会 		
6) 前回までの参加	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加した ② わからない ③ 参加しなかった 	13 1 1	86.7 6.7 6.7
参加回数	<ul style="list-style-type: none"> ① 1回 ② 2回 ③ 3回 ④ 4回 ⑤ 5回 	2 4 5 0 1	16.7 33.4 42.5 0 8.3

II.本日の研修会について

1.どのように研修会を知ったか	① 前回のお知らせ	9	60
	② ダイレクトメール	0	0
	③ ホームページ	0	6.7
	④ 看護部おすすめ	1	6.7
	⑤ 院内での案内	1	6.7
	⑥ 師長からの紹介	1	6.7
	⑦ 病院から	1	6.7
	⑧ 職場の上司	1	6.7
	⑨ 院内研修プログラム・研修案内のチラシ	1	6.7
2.参加の経緯	① 自分の希望	3	20
	② 上司からの推薦	7	46.7

	③ 組織からの派遣	3	20
	④ 今年度看護研究メンバーだから	1	6.7
	⑤ 研修プログラム	1	6.7
3.講演の内容は今後の看護研究に活かすことができそうか	① 活かせそう	11	73.3
	② 少し活かせそう	3	20
	③ どちらでもない	1	6.7
	④ あまり行かせそうにない	0	0
	⑤ 活かせそうにない	0	0
【上記の回答理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要がわかった ・ 具体的な方法が教えてもらえた ・ 研究発表の方法が具体的にわかった ・ 発表の要点が分かった ・ 全く知識がなかったが知れた ・ 書き方のポイントがわかった ・ 論文の構成がわかりやすかった ・ 内容が難しかった ・ 職場の支援体制が少ないため 		
4.個別・施設単位の相談は満足できる内容であったか	① 満足	6	42.9
	② やや満足	3	21.4
	③ どちらでもない	5	35.7
	④ やや不満足	0	0
	⑤ 不満足	0	0
【上記の回答理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次に自分が何をすればよいのか明確になった ・ 研究に慣れていないため相談の回数がもう少しあればうれしい（個別ではメールでの対応をしてもらっている） ・ わかりやすかった ・ 外部講師の相談はあるがタイムリーに相談ができない ・ わかりやすくアドバイスしてもらえる ・ 丁寧 ・ 個別相談をしていない ・ 当日は研修のみで個別相談はメールで依頼した 		

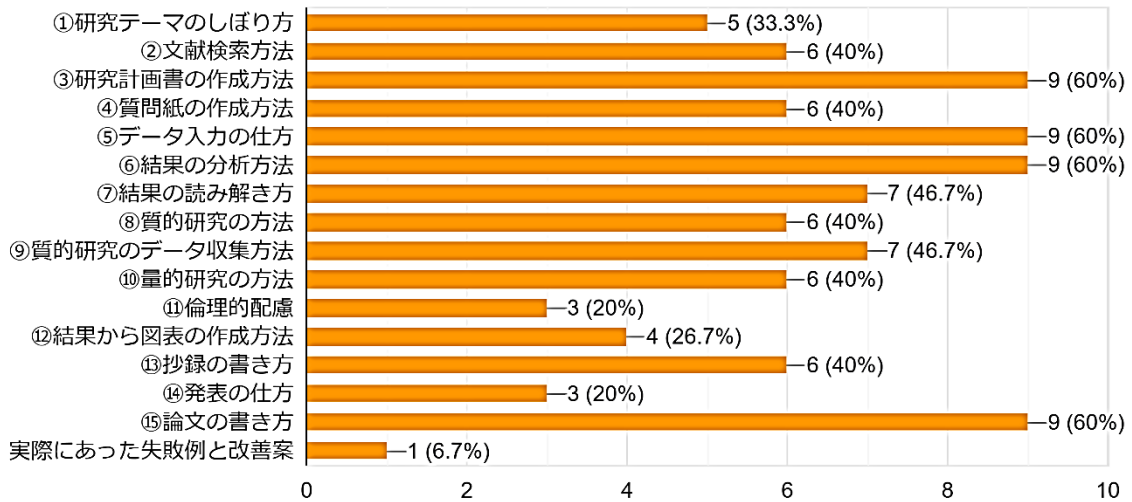
5. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか	① 活かせそう	7	50
	② 少し活かせそう	4	28.6
	③ どちらでもない	2	14.3
	⑥ あまり行かせそうにない	1	7.1
	⑥ 活かせそうにない	0	0
【上記の回答理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・ わからないことを教えてください、とてもありがたい。 ・ よくわかったから ・ 理解するまでには至っていない ・ 問題が見える ・ 個別相談していない 		
6. 今回の研修会の開催時期について	⑦ 適切である	12	80
	⑧ どちらともいえない	1	6.7
	⑨ 考慮したほうが良い	2	13.3
【上記の回答理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の経過に合っていた ・ もう少し早いほうがいい。 ・ 自分の研究計画と開催時期が合っていた ・ まとめる段階の時期であるため 		
7. 今回の研修会の開催場所について	① 適切である	14	93.3
	② どちらともいえない	1	6.7
	③ 考慮したほうが良い	0	0
【上記の回答理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン参加で参加しやすかった ・ 少し遠いため、リモート参加した ・ 問題はなかった ・ 講堂が適切 ・ 近いから 		
8. 今回の研修会の開催時間について	① 適切である	13	86.7
	② どちらともいえない	2	13.3
	③ 考慮したほうが良い	0	0

【上記の回答理由】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加しやすい間隔だった ・ 業務によって差があるためどちらとも言えない。 ・ 業務の中で参加出来た ・ 時間が参加しやすい時間だった ・ 子供の学校の迎えと重ならないので良かった 		
-----------	---	--	--

III.看護研究研修会で取り上げてほしいテーマ・内容について（複数回答可）

看護研究研修会で取り上げてほしいテーマ・内容を選んでください。

15件の回答



IV.意見等

- ・ これからまとめるのに苦労しそう。
- ・ わかりやすい授業ありがとうございます。
- ・ とても参考になりよかったです。

令和6年2月5日 第6回看護研究研修会個別相談アンケート結果

アンケート実施日：2024年2月5日（月）

研修参加者数：17名（対面1名、ZOOM16名）

アンケート配布部数：17部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数：1部（回収率 5.9%）

I. アンケート対象者

n = 1

項目	内容	人数	%
1) 取得免許・資格 (複数回答可)	看護師	1	100.0
2) 現在の職場での経験年数	7年目	1	100.0
3) 研究教育を受けたことがあるか (複数回答可)	ない	1	100.0
4) 研究実施経験	ある ・ 学術集会等全国学会での発表	1	100.0
5) 研究の支援体制	ない	1	100.0
6) 前回までの参加	参加した ・ 参加回数：3回目	1	100.0

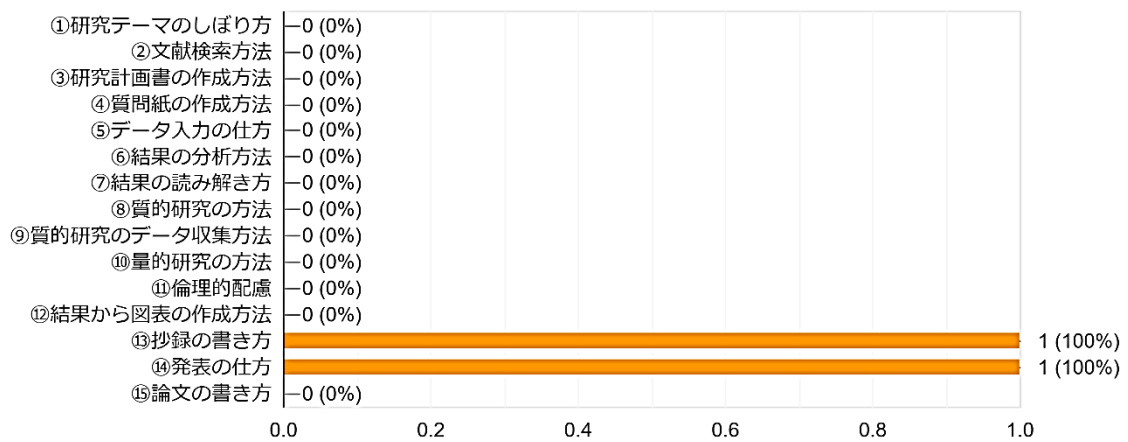
II. 本日の研修会について

項目	内容	人数	%
1. どのように研修会を知ったか	前回のお知らせ	1	100.0
2. 参加の経緯	自分の希望による	1	100.0
3. 相談は満足できる内容であったか	満足 ・ 研究方法やデータ収集・分析方法など専門的なことを明確に教えてもらった。	1	100.0
4. 今後の研究活動に活かせるか	活かそうである ・ 「こういうことをしたい」をどう研究したらよいか教えてもらえるから。	1	100.0
5. 今回の研修会の開催時期について	適切である ・ 勤務をしているため調整しやすい	1	100.0

	い間隔だから。		
6.今回の研修会の開催場所について	適切である ・職場が近いため。	1	100.0
7.今回の研修会の開催時間について	適切である ・勤務終了後に受けることができたため職場の負担が少ない。	1	100.0

III.看護研究研修会で取り上げてほしいテーマ・内容について（複数回答可）

1件の回答



IV.意見等

・なし



専門職を磨く教育プログラム

看護研究研修会

2023年度 年間予定

看護職にとって研究は欠かせないものです。岐阜大学医学部看護学科では社会貢献の一環として看護職のみなさまの看護研究能力を伸ばすお手伝いをさせていただいております。

看護研究にはじめて取り組む方、看護研究に行き詰っている方を対象に、基本的な看護研究に関する研修会を開催しています。研究を始めるにあたっての不安、疑問などにお応えできたらと思っております。研修会は、講義と個別相談の日、個別相談のみの日を設定いたしました。お忙しいとは存じますが、この機会にぜひご参加ください。

回数	日程	内容	時間
第1回	2023年 3月24日 (金曜日)	講義 ・テーマの見つけ方 ・文献の入手の仕方 個別相談会	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会
第2回	2023年 5月26日 (金曜日)	講義 ・質的研究の初歩 ・インタビューのすすめ方 個別相談会	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会
第3回	2023年 7月25日 (火曜日)	講義 ・アンケートの作り方 ・量的結果のよみとき方 個別相談会	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会
第4回	2023年 9月12日 (火曜日)	個別相談会のみ	13:30~17:00 時間予約可
第5回	2023年12月 4日 (月曜日)	講義 ・研究結果の伝え方 ・結果と考察の書き方 個別相談会	13:30~17:00 ・13:30~15:00 講義 ・15:00~17:00 相談会
第6回	2024年 2月 5日 (月曜日)	個別相談会のみ	13:30~17:00 時間予約可

*2024年度 第1回目 3月開催予定

会場

岐阜大学医学部看護学科棟 講義室1または4

参加費

無料

定員

30名程度

申し込み方法

事前予約を行っていますが、当日参加も可能です。
詳細は各開催回のご案内チラシをホームページでご確認ください。

お願い

ご参加の際はマスクの着用をお願いいたします。また、『新型コロナウイルス感染症対策における研修前確認シート』の提出をお願いいたします。

遠方の方を対象に、
Zoomによるリモートでの
参加も受けつけております。

事前予約の際に
『リモートでの参加』と、
お申し込みください。



岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト

TEL 058-293-3218 〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1

E-Mail s_koken@gifu-u.ac.jp



岐阜大学

IV. 地域住民健康教育プログラム

令和5年度 地域住民健康教育プログラム

1. 目的

地域住民と看護学科教員・学生が交流の機会をとおり、地域住民の看護学科及び看護に対する理解を得るとともに、学生が社会における看護職の役割を認識し、地域住民に貢献する看護職のあり方を追求する。

看護学科が有する人材を始めとし、施設や教材、および教育研究活動の成果等を県内外の個人、集団、組織およびコミュニティ等に活用してもらい、健康の維持・増進、生活の拡充等に寄与する。

2. 今年度の活動目標

- 1) 調査結果に対し、黒野地区地域住民と教員・学生が討議し、住民の健康課題・ニーズに対して、ヴィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した実現可能な地域活動計画を立案し、実践する。
- 2) 活動内容・実績を学内外に教員と学生が公表する。
- 3) 地域住民の各活動に学生・教員が参加するための間口を広げる。
- 4) 学生組織の確立を目指し PR 活動を行い、看護学科 1-3 年生の各学年 6% (5 人程度) の学生が組織に加入することを目指す。また、学生組織として社会貢献活動に参画する。

3. 活動実績と評価

今年度は、昨年度までに実施した「新型コロナウイルス感染症に伴う高齢者の健康・生活調査」をもとに、住民の健康課題・ニーズに対応するべく、学生を主体とし、実現可能な地域活動計画を立案・実施した。

当該活動は、今年度もネットワーク大学コンソーシアム岐阜が主催「学生による地域健康課題解決提案事業」の助成金を獲得し、成果報告会において代表学生が発表を行い、奨励賞を受賞した。

上記の活動結果より、今年度の活動目標は概ね達成されたと評価できる。

以下に、今年度の活動実績を示す。

1) 「学生による地域課題解決提案事業成果報告会」学内発表会・説明会

・開催日：2023年5月17日（水）15:00～16:00

・開催場所：講義室 3F

学生部会 3 年生の主要メンバー 2 名が、前年度のネットワーク大学コンソーシアム岐阜「学生による地域健康課題解決提案事業 成果報告会」で報告した「コロナ禍における地域高齢者の健康課題は何か？-実態調査から得られた知見-」を学内で報告し、教員から学生部会の

活動について説明が行われた。1-2年生 15名程度が参加し、学生のリクルートに繋がった。

2) 黒野自治会白寿会との活動打合せ

- ・開催日：2023年5月25日（木）
- ・開催場所：黒野会館
- ・参加者：黒野自治会（白寿会）3名、教員

3) 「黒野自治会白寿会との活動打合せ・顔合わせに」に向けた学生との打ち合わせ

- ・開催日：2023年7月7日（金）18:00～18:45
- ・開催場所：成人看護実習室
- ・参加者：学生4名、教員

4) 黒野自治会白寿会との活動打合せ・顔合わせ

- ・開催日：2023年7月18日（火）14:30～15:30
- ・開催場所：黒野会館
- ・参加者：学生4名、黒野自治会（白寿会会長）11名、教員
- ・活動結果：「白寿会との打ち合わせの報告書 令和5年7月18日」参照

5) 黒野自治会白寿会の料理教室への参加

- ・開催日：2023年9月12日（火）9:00～12:00
- ・開催場所：黒野会館
- ・参加者：学生4名
- ・活動結果：「料理教室振り返りの報告書 令和5年9月12日」参照

6) 「学生による地域健康課題解決提案事業 成果報告会」における当該活動の発表

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜令和5年度「学生による地域健康課題解決提案事業」において、当該プログラムの一連の活動を発表 奨励賞受賞

- ・開催日：2023年12月16日（土）
- ・開催場所：岐阜聖徳学園大学
- ・発表者・参加者：社会貢献部代表学生3名（2年生）、教員
- ・発表課題名：「ウィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した世代間交流プロジェクト」
- ・活動結果：「令和5年度「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会の報告書令和5年12月27日」参照
- ・参考資料：抄録および発表資料

7) 外部資金の獲得について

・1件：60,000円

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 令和4年度 学生による地域課題解決提案事業
「ウィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した世代間交流プロジェクト」

教員：田中千絵、阿部誠人、岡本名珠子、小林和成、瀨瀨朋弥

学生：2年生4名

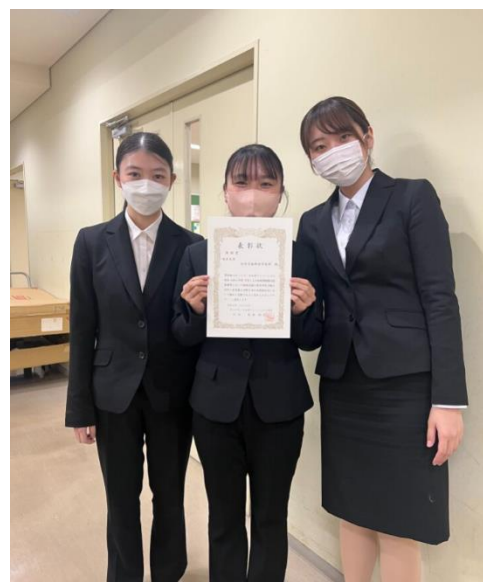
4. 次年度の課題

1) 今年度は学生を主体とし、黒野自治会白寿会の会長と打合せをしながら、活動計画を立てた。黒野自治会白寿会会長との打ち合わせのなかで、学生が新規の活動を計画するよりも、既存の活動に参加することへの要望があり、料理教室に参加することとなった。学生の授業時間の関係により、1回のみ参加となったが、学生が直接地域住民と関わる機会を設けることができた。そして、その活動のなかで、学生は参加者の健康意識や黒野地区における「地域の繋がり」の輪に入れていない人」に関して考察を深めることができた（詳細は別紙報告書参照）。次年度は、今年度の活動を踏まえ、継続可能な活動を今年度の活動を検討していく。

2) 活動目標4) について、2023年度末時点での地域貢献活動（地域住民健康教育支援プログラム）への参加登録学生数は41名である（1年生：2名、2年生：12名、3年生：14名、4年生13名）。各学年1-3年生の各学年6%（5人程度）の目標であり、昨年度に引き続き、低学年の参加者が少ない状況である為、次年度は特に低学年に向け、参加者の募集を実施する。

5. 今年度の活動メンバー

田中千絵（前期プログラムリーダー）、岡本名珠子（後期プログラムリーダー）、阿部誠人（リーダー補佐）、小林和成、瀨瀨朋弥



岐阜大学医学部看護学科
社会貢献部会 地域住民健康教育プログラム

1. 目的

地域住民と看護学科教員・学生が交流の機会をとおり、地域住民の看護学科及び看護に対する理解を得るとともに、学生が社会における看護職の役割を認識し、地域住民に貢献する看護職のあり方を追求する。

看護学科が有する人材を始めとし、施設や教材、および教育研究活動の成果等を県内外の個人、集団、組織およびコミュニティ等に活用してもらい、健康の維持・増進、生活の拡充等に寄与する。

2. これまでの活動

地域の自治会との対話、打ち合わせをベースに以下の活動を展開してきた。

- ・2020 年度以前：ニーズ調査：3 回（JR 岐阜駅前、本荘運動会、黒野運動会）
地域での行事に看護学科の専門性を活かして参画：2 回
（運動会での健康支援ブース等の展示）
学生による地域課題解決提案事業での報告：2 件
- ・2021-2022 年度 黒野地区住民の高齢者 3,252 名を対象として「新型コロナウイルス感染症に伴う高齢者の健康・生活調査」を実施。看護学科の学生も調査・準備、分析・結果の公表に参画。
- ・2022 年度：黒野自治会総会での報告、「学生による地域課題解決提案事業での報告（1 位を獲得）」
医学部表彰

3. 2023 年度の活動の方針

・活動方針【Plan・DO】

「新型コロナウイルス感染症に伴う高齢者の健康・生活調査」の結果を踏まえ、黒野地区地域住民と教員・学生が討議し、住民の健康課題・ニーズに対して、ヴィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した実現可能な地域活動計画を立案し、実践する。

**調査の結果**

★見えてきた課題

1. 身体機能の低下を感じている人が多く、運動の機会や習慣がない
2. 地域のつながりの輪に入れていない人の存在がある
3. 不足している栄養素に偏りがあり、咀嚼や飲み込みに不安を感じている人がいる
4. 地域での交流の場が顕著に減った

★課題解決への提案

1. 行政と協働し屋内や少人数でできる運動教室を開催する
2. 住民からレシピを募集し、学生が編集したお便りを配布する
3. 一人暮らし高齢者の把握をすすめ、ご近所さんとの相互見守りを促す
4. 学生が地域に出向き血圧測定や簡単な健康相談を行う

学生からは課題を解決する為に 4 つの案を出させていただきました。しかし、実際にどのような学生の行動が地域で望まれてるのかは、地域住民の高齢者の方との話し合いをもち、意見交換しなければ理解できないのではないかと考えました。そこで、地域住民の高齢者の方と看護学生が交流できる場を設けていただければと思います。

★打合せの進め方（予定）

時間	内容
14:30~14:40	全体で自己紹介。(学生から初めに行う)
14:40~15:10	グループごとに下部4の内容について検討。(※グループの進行は学生の司会が務める)
15:10~15:20	全体で検討した内容について報告。
15:20~15:30	清水様からコメントをいただく。時間があれば教員からもコメント。

1. 当該学生部の目的

地域住民と看護学科教員・学生が交流の機会をとおり、地域住民の看護学科及び看護に対する理解を得るとともに、学生が社会における看護職の役割を認識し、地域住民に貢献する看護職のあり方を追求する。

看護学科が有する人材を始めとし、施設や教材、および教育研究活動の成果等を県内外の個人、集団、組織およびコミュニティ等に活用してもらい、健康の維持・増進、生活の拡充等に寄与する。

2. 前年度、黒野地区で実施した「新型コロナウイルス感染症に伴う高齢者の健康・生活調査」から見えてきた課題

- 1) 身体機能の低下を感じている人が多く、運動の機会や習慣がない
- 2) 地域のつながりの輪に入れていない人の存在がある
- 3) 不足している栄養素に偏りがあり、咀嚼や飲み込みに不安を感じている人がいる
- 4) 地域での交流の場が顕著に減った

3. 2023年度の活動の方針

★活動方針【Plan・DO】

「新型コロナウイルス感染症に伴う高齢者の健康・生活調査」の結果を踏まえ、黒野地区地域住民と教員・学生が討議し、住民の健康課題・ニーズに対して、ヴィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した実現可能な地域活動計画を立案し、実践する。



4. 本日（7/18に）話し合いたい内容

コロナ禍により人と人の繋がりが希薄となり、黒野地区においても地域のつながりの輪に入れていない人の存在があることが理解できた。しかし実際、黒野地区に住む高齢者がどのように生活しているのか、こういった課題に対してどのように考えられているのかは、アンケートだけでなく、直接関わること、対話を通して理解できると考えた。

- ★可能であれば、料理教室などの行事への参加を通して地域で過ごす方々のお話を伺いたい。
- ★白寿会全体としての活動は資料を拝見できたが、それ以外にどのような活動が行われているのかが理解できていないため、教えていただきたい。
- ★学生部会がとらえた地域の課題に対して、地域の方々がどのようなお考えを持たれているか伺いたい。そこで、本日話し合いたい内容として、以下の点を挙げる。

- 1) 現在、白寿会で行われるの行事のなかで、学生が参加できる行事について。
- 2) 既に行われている行事のなかで、参加者の話を聞く時間がある行事について。
- 3) 白寿会全体で行われている行事に限らず、それぞれの地域で行われている行事について。
- 4) 地域のつながりの輪に入れていない人の存在があるという課題について。

令和5年7月18日

岐阜大学医学部看護学科2年
佐分萌乃 坪川凜香 水野麻衣、山本萌華

白寿会との打ち合わせの報告書

参加者：岐阜大学医学部看護学科2年 佐分、坪川、水野、山本

日時：令和5年7月18日

場所：黒野会館 岐阜県岐阜市下鶴飼 1564-3

参加者：黒野白寿会連合会の町内会長の方々

参加目的：
・前年度黒野地区で実施した「新型コロナウイルス感染症に伴う高齢者の健康・生活調査」から見えてきた課題に対して、黒野連合会白寿会の方々にお話を伺い、地域活動計画を立案するため。
・地域で暮らす方々のお話を伺うために学生が参加できる黒野地区の行事はどのようなものがあるか、黒野連合会の事業計画のほかにもどのような活動があるか、見つけた課題に対してどのような考えを持っているのか知るため。

打ち合わせ内容：「学生が参加できそうな行事」

1 料理教室1

場所：黒野会館

詳細：コロナ渦では、主に折り紙などでの交流を行っていた。
一人暮らしの集いであり、作った料理を独居の方へと配る。

2 料理教室2

場所：黒野会館

日時：毎週

詳細：4つのテーブルがあり、1テーブルに4人ほど参加できる。
参加可能な日 9月11日(月) 10:00~12:00 学生4名ほど
料理を作っている最中は真剣であるためあまり会話は無いが、食事中は会話が可能。

3 編み物サークル

場所：黒野会館

日時：月1回料理を行う

詳細：編み物サークルだが月一回料理をしている
参加可能な日 9月12日(火) 9:00~

4 スポーツ教室

開催日時：8月31日(木)、9月28日(木) 13:30~15:30

場所：西部コミュニティーセンター

詳細：レクダンスを行う。黒野市民運動会の発表に向けた取り組み
市民運動会で行う黒野音頭の練習を行う。参加募集中であるため人数は未定だが、毎年約20~30人の住民が参加している。

目的：白寿会の元気な姿を見せること、白寿会の会員を増やすこと。
黒野音頭を若い世代に継承すること。

5 子どもまつり

詳細：昔の遊びをする

6 地域の清掃

日時：9月20日(水)

詳細：毎月20日頃(日付は地域ごとで異なる)、各地区の神社に集い、清掃を行っている。
毎回約20分程度行う。

「現在行われている活動と課題」

- 1 活動内容：黒野白寿会には友愛部という組織があり、各地域のメンバーが独居の方の状態把握を行っているとのこと。カーテンの開け閉めを確認することで、異常に気付くことができたという良い例もある。年に2回、7月にティッシュ、12月にホッカイロを配給している。
課題：地域とあまりかかわらない、かかわりたくない独居の人がいること。独居で高齢の方が多いこと。87人のうち10人（世帯）が独居である。
- 2 活動内容：料理教室の開催をしている。独居の人に声をかけて一人でも簡単に作れる料理を一緒につくって食べる行事である。
コロナ禍によって料理を作ることはできなかったが、弁当を食べてレクリエーションを行いお互いに交流をしたそうである。
課題：交流を深めるだけでは食生活に役立たない。対話を通じて食に関する意識が変わるきっかけになるのか。
- 3 活動内容：黒野地区では、高齢者を中心に自治会や老人クラブなど、地域のつながりを保つ活動が行われている。
課題：地域のつながりの輪に入れず、孤立化している高齢者がいる。昔は当たり前になっていた自治体や老人クラブの加入だが、近年は避ける人が増え、かつ引っ越しなどの理由で脱退する人もいるため、加入数が減少している。加入を避ける理由としては、役員をやりたくない、コミュニティーが既にできている中に入りづらいなどが考えられ、地域のつながりの喜びを感じられない人がいる。繋がらなくても生活できるように社会が変わったことが問題だが、どのように地域社会を保つか、活性化させるかについては、自治体の方も悩んでいた。

今後:今後は、黒野地域で行われている活動に参加して黒野地域の交流についての理解を深め、どのような働きかけをすべきであるか考える。

活動に参加することで地域の方のご意見をいただき課題へと取り組む。

所感:今回の話し合いでは主に、黒野地域で行われている活動と独居の方への取り組みについて教えていただきました。様々な活動が行われていますが、参加したくないという方もいることを知ることが出来ました。その上で、地域との関わりを好まない方がいかに地域の活動に参加してもらうことが出来るかが幅広い交流につながると考えました。

令和5年8月10日

岐阜大学医学部看護学科2年
水野麻衣、山本萌華

8月10日 今後の活動について打ち合わせの報告書

参加者：社会貢献部会の先生方

岐阜大学医学部看護学科2年 水野、山本

日時：令和5年8月10日

実施場所：岐阜大学看護学科棟 講義室1

決定事項：

1. 9月11日の料理教室への参加

場所：黒野会館

日時：毎週

詳細：4つのテーブルがあり、1テーブルに4人ほど参加できる。

参加可能な日：9月11日（月）10：00～12：00 学生4名ほど

料理を作っている最中は真剣であるためあまり会話は無いが、食事中は会話が可能である。

2. 9月12日の編み物サークルへの参加

場所：黒野会館

日時：月1回料理を行う

詳細：編み物サークルだが月一回料理をしている

参加可能な日：9月12日（火）9：00～

3. 瀨瀨先生に白寿会の方へ詳細を確認していただく。今後参加可能な行事があれば再度詳細の確認をする

4. 今後

参加する行事は決定したため、料理教室と編み物サークルに参加するメンバーを募り、行事参加前には打ち合わせを行う。また行事後にも参加者、他のメンバーと共有をする。

令和5年9月5日

岐阜大学医学部看護学科2年生
水野麻衣、大畑いお、神野裕子、苅谷美有、後藤咲季

料理教室に向けた打ち合わせの報告書

参加者：社会貢献部会の先生方

岐阜大学医学部看護学科2年 大畑、神野、苅谷、後藤、水野

日時：令和5年9月5日

実施場所：岐阜大学看護学科棟 地域看護実習室

議題：社会貢献部会の活動目的、7月18日に行われた白寿会との打ち合わせ内容の共有、料理教室に向けての確認

・白寿会の方との打ち合わせに関する共有内容

前年度の「新型コロナウイルス感染症に伴う高齢者の健康・生活調査」では主につなごりの輪に入っていない人の存在がある、交流の場が顕著に減ったという課題が見えたが、今年7月18日の打ち合わせでは自治会の方も同じ課題を抱え、対策を講じていることが分かった。料理教室ではこの課題を基に世代間交流を行う。

・地域の方への質問、確認する項目

地域の方は15人程度加入しており、学生部からは5名が参加させていただく。当日は料理中ではなく、食事中に以下の内容を質問する。

- 1 料理教室での交流、輪に入れない方への働きかけについて
 - ・何をきっかけに編み物サークル（料理教室）に参加したのか
 - ・参加することにより、料理教室以外で地域の方との交流する機会に変化があったか
 - ・どのような目的で参加しているのか
 - ・輪に入れない方の存在を知っているのか、気にかけているのか
 - ・輪に入れない人にどのような働きかけが必要だと思うか
 - ・学生部に期待していることは何か
- 2 黒野地区の方の食や健康意識について
 - ・普段の食生活、食に関する興味
 - ・普段の健康意識（住む地域によって環境、コミュニティー、施設の違いがあり、それぞれの健康意識にどんな影響があるのか）
 - ・前年度の調査結果が正しいのか、確認する
- 3 編み物サークル、料理教室について
 - ・参加者数
 - ・料理をすることがどのような影響をもたらすのか
 - ・料理教室に参加されているメンバーはずっと同じなのか
 - ・コロナ禍でどのように変化したのか（参加者数、交流のしかたなど）

今後

現時点では、前年度から課題としている「輪のつながりに入っていない人」の定義が不明瞭である。しかし、12月の発表のためには、地域との交流の機会を全くもっていない人、自治会の活動には参加しないが近隣の方と挨拶はする人など、料理教室の参加者との交流を通して「輪のつながりに入っていない人」の交流の程度を把握する必要がある。

令和5年9月12日

岐阜大学医学部看護学科2年生
水野麻衣、大畑いお、神野裕子、後藤咲季

料理教室振り返りの報告書

参加者：岐阜大学医学部看護学科2年 大畑、神野、後藤、水野

日時：令和5年9月12日

場所：黒野会館

参加目的：料理教室に参加する高齢者との世代間交流のため。

昨年度の調査で得た課題に対して、黒野地区の住民がどのように考えているのか、実態調査を行うため。

1. 料理教室の参加者からいただいた情報

(1) 編み物サークル・料理教室と、その参加者について

- ・編み物サークルは月2回、料理を楽しむ会は月1回の頻度で開催していた。料理教室の参加者は15人程度で、4つのテーブルに各3~4人を配置し、くじ引きでテーブルを決めていた。中には編み物サークルは加入せず、料理教室だけ参加している方もいらっしまった。
- ・編み物サークルでは11月の展示会に向けて作品づくりをしている。
- ・料理教室ではリクエストを受けて来月のメインメニューを決めており、9月はエビチリ、10月はおはぎを作る予定。
- ・サークルの中に料理の先生がおり、各テーブルの足並みを揃えて料理の手順を指示していた。参加者の中には先生の指示を気にするため料理に不慣れな方も見られたが、素早く作業する方もいらっしまった。
- ・参加者は旦那さんとの2人暮らしの方が多く、次いで子ども家族と同居している方が多かった。

(2) 参加のきっかけ

- ・参加者によって、料理教室や編み物サークルに参加するきっかけは様々だと分かった。友人から誘われた、地域の広報を見て知った、趣味で料理や編み物をしている、または昔やっていたという方もいらっしまった。しかし、家で引きこもらないようにするため、手先を動かすことで認知症対策になるため、自分にはない知識を身につけるためといった、健康と活動に関する目的を持って参加される方もいらっしまった。筋トレサークルや水泳サークルにも参加し、活動的で向上心の高い方も見られた。

(3) 健康意識について

- ・健康について気を付けていることを伺ったところ、畑仕事をする、独居でも自分で料理を作る、散歩をするなど、身体を動かすことに関しては気を付けている様子であった。しかし、料理教室以外では自分で料理をせず、買ってきたおかずを食べている方や、活動参加後は気疲れするため家で休んでいる方もいらっしまった。黒野会館では健康に関するサークルに入り、活動的に過ごしている方でも、自宅では毎日昼寝をしたり好きなものを食べたりと、健康に特別な配慮をしない生活をしている方もいらっしまったことが分かった。
- ・地域の活動の場で同年代の友人が集まると、ワクチン接種や検診など健康に関する話題が自然に上がり、健康に関する興味はあると把握できた。

(4) 新型コロナウイルスについて

- ・流行し始めた頃は黒野会館での活動ができず、編み物サークル・料理教室も中止となったが、メンバーの自宅に集まり、非常に小規模で活動している方もいらっしやった。
- ・新型コロナウイルスが流行し始めてから3年が経ち交流の機会が増えてはいるものの、未だに感染には気を付けている様子であった。ワクチン接種やマスク着用など、実際に感染対策を行動に移している方もみえた。

(5) 料理教室での交流について

- ・料理しながら話すことや、食事中に他愛のない話をするのが楽しいと感じている方が多かった。メンバーどうし仲が良いことを実感しているという声もあり、気軽に声を掛け合える関係だと分かった。中には黒野会館以外でも交流の機会をもっている方もいらっしやった。

(6) コミュニティーの輪に入れない方について

- ・地域の活動に参加する機会がない方の存在については、認知はしている方が多かった。輪に入れない方の中にも、黒野会館での活動には参加していないが、畑や近所など、個人での交流を持っている方はいると教えていただいた。コミュニティーの規模や形は違うだけで、地域の交流を断絶しているとは言い切れないことが分かった。

2. 所感

- ・輪に入れない方の存在について、ある参加者は、サークルに参加しない
- ・住民には男性が多いことを実感していた。今回の料理教室でも、参加者は女性であった。しかし、7月18日に参加した白寿会の方との打ち合わせでは、参加者の多くが男性であった。これより、男性は歴史研究会、白寿会など、組織で動くことや地域おこしをすることには興味があるが、女性のように趣味のために集まることは比較的少ないのではないかと考察できた。
- ・今回の料理教室の参加者の中には、黒野会館から自宅が近い方もいらっしやったが、自動車で来なければならないほど遠くから来られる方もいらっしやった。自転車や自動車で黒野会館まで足を運び、準備から片付けまで約3時間動くためには、体力がある方でないと参加が難しいのではないかと考察した。
- ・料理教室の参加者の方々は、学生が参加することに喜んでくださっている印象を受けた。初対面の学生に対しても積極的に声をかけ、学生ができることを見つけ、料理を教えてくださいました。コミュニティーに参加している方はこのようにコミュニケーション能力に長け、初めて参加する人をも受け入れてくださる方が多いのではないかと考えた。料理教室に参加されている方は今のコミュニティーや生活に不便を感じている方が比較的少ないと思うため、若い世代との交流を増やしたいとまで考えていらっしやる方は少ない可能性があるが、学生が参加することで地域の活性化の一部として貢献できたのであれば、今後も社会貢献部会として黒野地区の活動に参加させていただきたい。

ウィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した世代間交流プロジェクト

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会地域住民健康教育プログラム学生部

2年 坪川凜香 水野麻衣 大畑いお (指導教員 田中千絵)

1. プロジェクトの背景と目的

岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会地域住民健康教育プログラム学生部(以下、学生部)は、社会貢献活動の一環として、本学所在地である岐阜市黒野地域住民を支援する健康教育プログラムを展開している。新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)蔓延後の高齢者の健康課題やニーズを明らかにする目的で、3,252名の地域住民を対象に、令和3年度から令和4年度にかけて行った実態調査(Study)では、以下の課題が明らかになった。

- ・ 身体機能の低下を感じている人が多く、運動の機会や習慣がない
- ・ 地域のつながりの輪に入れていない人の存在がある
- ・ COVID-19以前と比較して地域の交流の場が顕著に減った
- ・ 摂取栄養素に偏りがあり、咀嚼や飲み込みに不安を感じている人がいる



これらの課題を踏まえ、学生部と黒野地区老人クラブ連合会(以下、白寿会:実態調査の協力団体)との協働により、地域住民の健康課題解決策を検討(Act)し、活動計画を策定(Plan)、実施した(Do)。

本プロジェクトの目的は、地域住民と学生部が協働し、世代間交流を通じて互いの価値観や新たなニーズを理解し、地域住民同士および学生との交流を促進することである。このことにより、地域課題解決のために効果的かつ持続可能な学生部の活動計画に示唆を得ることを目的とする。

2. 健康課題をふまえた計画策定のプロセス

令和5年4月、看護学科1,2年生を対象として、これまでの活動報告を行い、学生部の新規メンバー募集を行った。

7月、新旧メンバーが顔を合わせ、これまでの活動内容、明らかになった課題を共有し、今年度の活動方針について検討した。同月18日、白寿会役員との打ち合わせでは、学生の参加可能な地域行事について検討を行った。役員からは、孤立する高齢者、自治体や老人クラブの会員数減少、地域のつながりを得る機会の不足等の課題が語られた。

8月、白寿会との複数回の打ち合わせを重ね、地域住民との交流しやすさ、学生の参加可能な日程等から、料理教室に参加することとした。

9月、料理教室参加前に、学生部メンバー全員で打合せを行った。昨年度の実態調査において示唆を得た「つながりの輪に入れていない人の存在」や「交流の場の顕著な減少」という地域課題は、白寿会においても課題であると捉えられていることを再確認した。このことから、料理教室参加により、以下

の点について示唆を得るために活動を行うこととした。

- 1) 料理教室参加者の健康意識や食に関する興味
- 2) 料理教室参加者の参加の動機、継続要因、意義
- 3) 地域の輪に入れていない者の存在の認識と必要な働きかけ
- 4) 料理教室参加者が学生部に期待すること

3. 黒野地区白寿会連合会料理教室への参加を通して



黒野会館での料理教室には、地域住民 15 名と学生 4 名が参加。参加者と学生が活動を行い、上記 4 項目に関して、以下のような気づきが得られた。

- 1) 参加者の「健康意識」に関して、活動的な生活を心がける方が多く、他の体操教室やサークル活動への参加が多く見られた。徒歩や自転車を利用して日常的に体を動かす工夫も見られた。料理教室参加者には咀嚼や飲み込みの不安は感じられず、細かく栄養素を考えるよりも食事の楽しみを重視している傾向があった。
- 2) 近隣の友人との交流、新しい料理を覚えたい、家族に喜ばれたい、健康的な生活をしたいが主な参加動機であった。参加継続の要因はメンバー同士の繋がり、意義は近隣付き合いの広がり、健康維持、認知症予防、趣味の楽しみなどがあった。
- 3) 参加者は「地域のつながりの輪に入れていない人」について認識があったが、畑や挨拶などで個人的に交流している場合もあった。このことから、必ずしも「つながりの輪に入れていない人」とは言い切れないと考えた。地域における有効な働きかけは、挨拶、行事への誘い合い、普段からの助け合いという意見が多く、日常的な関わりの積み重ねであると分かった。
- 4) 参加者は、岐阜大学の学生が地域の一員となることを嬉しいと話してくださった。また、もっと話ができる機会が欲しい、若い人の生活や健康に関する情報が欲しいとの言葉があった。

4. 本プロジェクトの振り返りと今後の活動に向けて

今年度は、地域の料理教室に出向き、参加者の健康意識やコミュニティの認識について知ることができた。さらに、地域住民が本学生部に期待することが明らかになった。具体的には、地域住民が学生部に求めるのは、健康を地域住民とともに考える機会、地域住民と学生が日常的に関わる機会、そして学生と地域住民が交流・対話できる機会を設定することであった。

料理教室の参加者は、初対面の学生に対しても積極的に声をかけてくださった。また、学生ができる作業を提案し、料理を教えてくださった。「地域貢献をする」という目的の学生部の活動であったが、学生の方が地域に温かく迎え入れていただき、伝統的な家庭料理や地域の話題に触れさせていただいたことは、貴重な体験となった。このことで、大学のある黒野地域への愛着や地域に貢献したいと思う気持ちが強くなった。

今後、この学びを生かし、継続可能な活動内容を検討していきたい。さらに、他の学生に学びや地域貢献の意義を伝えていくことで、共に活動する仲間を増やし、少しでも地域に貢献できる学生部へと発展させていきたい。

ウィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した世代間交流プロジェクト

岐阜大学医学部看護学科
社会貢献部会 地域住民健康教育プログラム学生部
2年 坪川凜香 水野麻衣 大畑いお

1

1. プロジェクトの背景と目的

- ・社会貢献活動の一環として、本学所在地である岐阜市黒野地域住民を支援する健康教育プログラムを展開している。
- ・R3年度～R4年度 新型コロナウイルス感染症蔓延後の高齢者の健康課題・ニーズを明らかにする目的で、地域住民3,252名を対象に実態調査 (study) を行った。

2

実態調査から明らかになった4つの課題

- ・身体機能の低下を感じている人が多く、運動の機会や習慣がない
- ・地域のつながりの輪に入れていない人の存在がある
- ・コロナ禍以前と比較して地域の交流の場が顕著に減った
- ・栄養に偏りがあり、咀嚼や飲み込みに不安を感じている人がいる



学生部と黒野地区老人クラブ連合会（以下、白寿会）との協働により、地域住民の健康課題解決策を検討（Act）、具体的な計画を策定（Plan）、活動を開始した（Do）。

3

本プロジェクトの目的

- ・地域住民と学生部が協働し、世代間交流を通じて、互いの価値観や新たなニーズを理解し、地域住民同士および学生との交流を促進すること。
- ・地域課題解決のための効果的かつ持続可能な活動計画に示唆を得ること。

4

1.健康課題をふまえた計画策定のプロセス

- ① 令和5年4月 学生部活動報告（看護学科1、2年生対象）
目的：活動の周知、学生部新規メンバー募集
- ② 7月 新旧メンバー顔合わせ会
目的：昨年までの活動内容、課題の共有、活動方針の検討
- ③ 7月18日 白寿会役員との打ち合わせ
目的：地域住民の生活実態、地域行事の情報収集

5

④ 8月 学内学生部打ち合わせ

目的：学生が参加する行事を検討→料理教室と決定

⑤ 9月 料理教室参加前の事前打合せ

目的：料理教室における活動目標・計画の検討

料理教室参加により、以下の4つについて示唆を得る

- 1) 料理教室参加者の健康意識や食に関する興味
- 2) 料理教室参加者の参加の動機、継続要因、意義
- 3) 地域の輪へ入れていない者の存在の認識と必要な働きかけ
- 4) 料理教室参加者が学生部に期待すること

6

3. 料理教室への参加を通して

- ・実施場所：岐阜市黒野会館
- ・参加者：地域住民15名、学生4名
- ・活動内容：月2回の編み物サークル、月1回の料理教室
- ・その他：新型コロナウイルス感染症の影響で一時中止された。
令和5年度より再開



7

参加を通して得た気づき

1) 参加者の「健康意識」

- ・活動的で健康的な生活の工夫が見られ、健康への意識が高いことが分かった。
- ・参加者には咀嚼・飲み込みの不安は見られず、食事の楽しみを重視。



※参加者の方に許可を待っています

2) 参加の動機、継続要因、意義

- ・動機は、近隣付き合い、家族のため、健康的な生活のため。
- ・継続要因は、メンバー同士の繋がり
- ・意義は、近隣付き合いの広がり、健康維持、趣味の楽しみなど。

8

3) 「地域のつながりの輪に入れていない人」への認識

- ・畑や挨拶を通じた個人的な交流もある
- ・つながりの輪に入れていない人とは言い切れない
- ・挨拶、行事への誘い合い、普段からの助け合い
(日常的な関わり)

4) 学生部に期待すること

- ・岐阜大学の学生が地域の一員となることが嬉しい
- ・話ができる機会、生活や健康に関する情報が欲しい



※参加者の方に許可を待っています

9

4. 本プロジェクトの振り返りと今後に向けて

本プロジェクトの振り返り

- ・地域住民が学生部に期待することは、以下の機会を設けること
 - 健康を考える機会
 - 学生と地域住民が日常的に関わる機会
 - 学生と地域住民が交流・対話できる機会
- ・地域への愛着や貢献したいと思う気持ち
 - 温かく迎え入れて下さった
 - 伝統的な家庭料理や地域の話題に触れた

10

岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会学生部

今後の活動に向けて

- ・実現・継続可能な活動内容の検討
- ・他の学生に学びや地域貢献の意義を伝える
- ・共に活動する仲間を増やす

少しでも地域に貢献できる学生部へと発展させたい

11

令和5年12月27日

岐阜大学医学部看護学科2年生
大畑いお、坪川凜香、水野麻衣

令和5年度「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会の報告書

参加者：岐阜大学医学部看護学科2年 大畑、坪川、水野

日時：令和5年12月16日

場所：岐阜聖徳学園大学 岐阜キャンパス3号館1階 310講義室

スケジュール：11：30～12：50 受付

13：00～13：15 開会あいさつ 諸注意

13：15～16：00 採択団体の発表 約13分間

(発表10～11分間、質疑2分間) 交代(2分)

16：00～16：45 審査、学生向け説明・交流、アンケート記入等

16：45～17：00 審査結果発表、講評、閉会あいさつ

質疑応答：Q1 令和3年度～令和4年度にかけて行った調査はどのように行ったのか

A1 黒野地区に住む方に紙媒体でのアンケート用紙を配り、行った。
約半数の方がアンケートに答えて下さり、学生で集計を行った

Q2 どうして料理教室に決めたのか

A1 少人数で行うため話を聞きやすく、料理ということで日常の様子を垣間見れると
思ったため、嚥下機能に不安があるという昨年度の結果から、嚥下について情報
が得られると思ったため

Q3 今回の発表で得た結果は、どのように集計したのか

A3 料理教室終了後に参加した学生で学んだことを話し合い、料理教室参加者から得
られた意見を発表資料にまとめた

A3 に対して頂いたご意見 料理教室参加者の健康意識や参加動機について、データ
として集計した方が良かった。

成績 第一会場 1位 東海学院大学 健康福祉学部管理栄養学科

2位 岐阜市立女子短期大学 長屋研究室

3位 岐阜協立大学 自治体財政研究会

第二会場 1位 岐阜協立大学 ソフトピア共同研究室 A チーム

2位 岐阜聖徳学園大学 DX 推進チーム

3位 中部学院大学 看護リハビリテーション学部理学療法学科